# 小牧市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書

第１　点検及び評価の対象及び実施日

対　象　令和４年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

実施日　令和５年７月１４日

第２　点検及び評価の方法

教育委員会事務局において、令和４年度教育委員会基本方針に掲げた重点施策について、令和４年度実績をまとめた点検評価シートを作成した。当該点検評価シートを外部の学識経験者等からなる評価委員会に諮り、教育委員会にて議決した。

第３　点検及び評価の結果

点検評価シート（令和４年度実績）に記載

# 令和４年度の重点施策

## 基本目標１　時代を切り拓く力を育む「学び」の充実

✎　人と関わり合いながら学ぶ「学び合う学び」を進め、様々な課題に関心を持って主体的に学ぶことで、確かな学力を育みます。

✎　理数教育や国際教育などを充実し、未来にはばたく人材を育成するとともに、特別支援教育や外国人児童生徒への教育を推進します。

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>「学び合う学び」を支える教員研修の実施（施策１）</td><td>担当課<br>学校教育課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">「学び合う学び」を土台に据えた学級・授業づくりに役立つ実技講座や児童・生徒理解、指導にかかわる研修を効率的・効果的に実施します。</td></tr>
<tr><td>達 成 状 況</td><td colspan="2">・各小中学校において、教員が学級や授業づくりに活用できる知識や経験を学び合うため、校内授業研修などを実施するとともに、ＯＪＴの充実に努めました。<br>・教育委員会において、「学び合う学び」を土台に据えた様々な実技研修や座学研修を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できないものが多くありました。<br>・社会が大きく変わる中で、令和４年度については、教育講演会について実施内容・実施方法を見直し、検討する年として、実施を見合わせました。<br>・児童生徒１人１台端末の整備に合わせて、ＩＣＴ機器の操作・活用研修を小中学校の全教職員を対象に実施しました。<br><br>◆主な研修の種類<br><table><tr><th rowspan="2">研修項目</th><th colspan="3">参加延べ人数</th></tr><tr><th>R4 年度</th><th>R3 年度</th><th>R2 年度</th></tr><tr><td>現職教育研修（研修参加人数）</td><td>932 人</td><td>944 人</td><td>952 人</td></tr><tr><td>新任・少経験・経験教員研修</td><td>243 人</td><td>271 人</td><td>337 人</td></tr><tr><td>校長・教頭・教務主任・校務主任等研修</td><td>581 人</td><td>581 人</td><td>530 人</td></tr><tr><td>専門研修（教育課題への対応）</td><td>266 人</td><td>245 人</td><td>0 人</td></tr><tr><td>専門研修（教職専門性の向上）</td><td>725 人</td><td>1,146 人</td><td>0 人</td></tr><tr><td>特別研修</td><td>310 人</td><td>348 人</td><td>41 人</td></tr><tr><td>教育講演会</td><td>0 人</td><td>641 人</td><td>0 人</td></tr><tr><td>中堅教員国内派遣研修</td><td>2 人</td><td>2 人</td><td>0 人</td></tr></table></td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 課　　題 | ・ＩＣＴ教育研修や、経験年数の浅い教員の力量向上のための研修を充実していく必要があります。<br>・教職員研修の充実は必要ですが、多忙化解消の観点から授業や他の業務を考慮した研修計画が必要です。<br>・感染拡大防止により、市主催の夏季教職員研修をすべてオンラインでの実施としたため、中止した講座もありました。<br>・研修での学びを学校現場へ普及・還元する方法を検討していく必要があります。 |
| 今後の取組の方向性 | ・評価を含めた授業づくり、プログラミング教育を含めたＩＣＴ教育の研修などを充実させます。<br>・教職員の負担を考慮しながら研修内容を随時見直し、時代の要請、教職員のニーズに応じた研修を企画します。<br>・「学び合う学び」を進める教員の力量向上のための研修を引き続き企画します。<br>・経験の少ない教員の増加が予想されていることから、児童生徒理解や教科の指導法など、ＯＪＴを充実し、より具体的な事例を挙げた研修を企画します。 |
| 評価委員の意見等 | ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が求められる中、小牧市が取り組んできている「学び合う学び」を維持・発展できるよう、効率化をはかりつつ市の研修、校内研修、ＯＪＴの一体的な充実を図ることが求められます。<br>・教師の多忙化の現状を踏まえ、オンラインの効果的活用を模索してください。基本は対面が望ましいですが。高校教員や教職についていない免許取得者に対する研修もあるとよいと思います。<br>・教員の多忙化解消のために、今後もオンラインの研修も混ぜた実施が望まれます。人材を育成する教員研修も対人で行われる方が理想的ではありますが。<br>・発達障がい児の割合が高まっている昨今、障がい児童を多様性の中で捉えて教育していく必要があり、今後その方面の教育方法などの研修も増えていくのではないでしょうか。<br>・教員免許更新制度が廃止され、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励をしていくために、これまで同様、様々な実技研修や座学研修を企画していただきたいです。<br>・ＩＣＴ教育は、子どもたちだけでなく、教える側の教員にも必要な教育となりますので、積極的な取組は評価できます。一方で、教員の多忙化解消の視点からも、専門性の高いＩＣＴ教育などはＯＪＴで学ぶことも方法の一つですが、専任の教職員で対応することも有効かと考えます。<br>・新型コロナウイルス感染症が５類になったが、教職員の負担軽減 |

| | |
|---|---|
| | のため、引き続きオンライン開催を積極的に実施すべきと考えます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>ＩＣＴを活用した学びの充実（施策３）</td><td>担当課<br>学校教育ＩＣＴ推進室</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">令和４年３月に策定した第２次小牧市学校教育ＩＣＴ推進計画に基づき、ＩＣＴ教育のパイオニア校（小牧小・大城小・小牧中・光ヶ丘中）において、クラウドサービスや学習履歴等を効果的に活用した学びについて研究・実践します。</td></tr>
<tr><td>達 成 状 況</td><td colspan="2">・パイオニア校において、児童生徒１人１台タブレットＰＣ及び学習者用デジタル教科書などを活用した授業実践に取り組み、実践事例集を作成しました。<br>・小学校では、デジタルドリル上で確認テストを実施後、担任がクラスの平均点や児童一人ひとりのテストにかかった時間などから、子どもたちの理解度を把握して次の授業の参考にしています。<br>・中学校では、子どもが授業支援ソフトウェアに毎時間の振り返りを入力・蓄積して、自分の考えの変容や深まりを実感したり、次時の目標を具体的に立てたりしています。一方、教員は子どもたちの振り返りデータから、授業のねらいに即した学びになっているかを確認したり、次時の授業展開に生かしたりしています。<br>・ＩＣＴ支援員が各校を月４回程度訪問し、ＩＣＴ機器に苦手意識を持つ教員のニーズにあわせて授業支援を行ったり、校内研修の支援を行ったりしています。<br><br>◆1 日 1 回以上タブレットＰＣを活用しているクラスの割合
<table>
<tr><td></td><td>小学校</td><td>中学校</td><td>市全体</td></tr>
<tr><td>令和3年2月時点</td><td>27.2%</td><td>49.4%</td><td>31.4%</td></tr>
<tr><td>令和4年2月時点</td><td>47.4%</td><td>79.8%</td><td>54.3%</td></tr>
<tr><td>令和4年12月時点</td><td>55.5%</td><td>80.0%</td><td>60.4%</td></tr>
</table>
<br>◆パイオニア校の実践事例数（年間）
<table>
<tr><td>項目</td><td>味岡小</td><td>大城小</td><td>味岡中</td><td>光ヶ丘中</td></tr>
<tr><td>令和2年度</td><td>31事例</td><td>17事例</td><td>38事例</td><td>11事例</td></tr>
<tr><td>令和3年度</td><td>32事例</td><td>17事例</td><td>35事例</td><td>16事例</td></tr>
<tr><td>項目</td><td>小牧小</td><td>大城小</td><td>小牧中</td><td>光ヶ丘中</td></tr>
<tr><td>令和4年度</td><td>31事例</td><td>17事例</td><td>36事例</td><td>19事例</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td></td><td>◆パイオニア校アンケート結果
<table>
<tr><th>項目</th><th>R3年2月</th><th>R4年2月</th><th>R4年12月</th></tr>
<tr><td>タブレットＰＣを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合</td><td>81.1%</td><td>83.2%</td><td>82.2%</td></tr>
<tr><td>授業の中でＩＣＴ機器を活用したいと感じている教員の割合</td><td>99.0%</td><td>98.2%</td><td>96.0%</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td>・学習活動を充実させるための「学びの道具」としてＩＣＴ機器を効果的に活用できるように、教員一人ひとりのＩＣＴ活用指導力を向上させる必要があります。<br>・教育クラウドアーカイブにＩＣＴを効果的に活用した事例などを蓄積・情報共有し、学習活動を充実させる必要があります。</td></tr>
<tr><td>今後の取組の方向性</td><td>・ＩＣＴに苦手意識を持つ教員の負担感を軽減し、ＩＣＴを効果的に活用できるように、ＩＣＴ支援員の支援を受けつつ、ＩＣＴ活用研修を計画的に実施します。</td></tr>
<tr><td>評価委員の意見等</td><td>・経年変化で増加傾向にあるものの、１日１回以上タブレットＰＣを活用しているクラスの割合が、小学校では半数程度にとどまっています。無理に使用する必要はありませんが、教科内容の理解を深める場面や、意見交流を行う場面など、ＩＣＴの活用範囲も広がっていることから考えれば、活用の機会が増えることが望まれます。クラウドアーカイブでの事例の共有は、ぜひ進めていただきたいです。<br>・パイオニア校の取組を標準化し、各校で、校長主導で変革していけるようにしてください。<br>・スマホ脳の問題が出てきており、ＩＣＴと紙媒体の教材との使い分けも今後必要になってくるのでは、と考えられます。ＩＣＴの技術も持ちつつ、児童生徒の脳の健全な発育の方法の研修も行ってほしいです。<br>・ＩＣＴ支援員が来校し、授業支援を行っていることで、各校でＩＣＴ活用の幅が広がっています。研修も大切ですが、支援により現場で教員が実践し、技術を習得し、スキルアップできているので、今後もＩＣＴ支援員の配置をお願いします。<br>・ＩＣＴへの苦手意識を克服するためのキーワードは、学校現場でのＯＪＴの充実だと思います。そのためには、勤務時間体制の工夫を重ねて教職員の話しやすい環境づくりが大切だと思います。<br>・授業の中でＩＣＴ機器を活用したいと感じている教員の割合が年々減少している点は気になります。教員のＩＣＴ活用スキルレベルに任せるのではなく、ルーチンとして取り組める仕組み作りを期待し</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| | ます。<br>・タブレットＰＣを活用した授業がわかりにくいと感じている児童生徒が 20%近くいて、改善されそうな傾向が見えないことが気になりました。タブレットをもう少し身近に楽しく慣れ親しむために、特定の知的ゲームをできるように検討してはどうでしょうか。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>学校生活サポーターの配置（施策４）</td><td>担当課<br>学校教育課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">特別支援学級に在籍する児童生徒をよりきめ細やかに支援するため、学校生活サポーターを増員し、教員や特別支援教育相談員などとの連携により支援体制を充実します。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・各小中学校の特別支援学級において、担任のもとで児童生徒の学校生活を支援する「学校生活サポーター」を増員し、支援の充実を図りました。<br>・学校生活サポーターは、児童生徒が学習課題を行う際の手助けや、他の学級との交流及び共同学習のための教室移動の付添いなど、担任と相談しながら個々の児童生徒の状態に応じた支援を行いました。<br>・学校生活サポーターへの支援体制として、合同研修会を学期ごとに実施し、事例を持ち寄り支援の方法などを話し合ったり、カウンセラーの講演を聞いたりすることを通して、児童生徒への寄り添い方などを習得し、業務に役立てました。
<table>
<tr><td>項目</td><td>R4 年度</td><td>R3 年度</td><td>R2 年度</td></tr>
<tr><td>特別支援教育介助員</td><td>0 人</td><td>0 人</td><td>0 人</td></tr>
<tr><td>学校生活サポーター</td><td>16 人</td><td>15 人</td><td>12 人</td></tr>
<tr><td>特別支援学級に在籍する児童生徒数</td><td>299 人</td><td>280 人</td><td>252 人</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td colspan="2">・平成 28 年 4 月に「障害者差別解消法」が施行され、より重度の障がいがある児童生徒が、地域の学校への就学を希望することが増えてきています。<br>・外国人児童生徒の増加に伴い、障がいがある外国人児童生徒も増えてきています。</td></tr>
<tr><td>今後の取組の方向性</td><td colspan="2">・支援が必要な児童生徒の増加に対応するため、令和 5 年度は学校生活サポーターを 2 人増員し、18 人体制とします。<br>・今後も特別支援学級に在籍する児童生徒の人数や個別支援が必要な児童生徒の状況を把握し、適切に学校生活サポーターを配置するように取り組んでいきます。</td></tr>
<tr><td>評価委員の意見等</td><td colspan="2">・学校生活サポーターの増員は今後も継続して取り組むべきです。一方で、多くの児童生徒のニーズに応えられているかについては、点検・評価が必要です。<br>・人員の増加が第一ですが、サポーターなどを通して児童生徒への障がいに対する理解を促す啓発教育を道徳や他教科などで行えればよいと思います。</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| | ・学校生活サポーターはますます必要となる存在です。今後ともこの取組が継続されていくよう支援が求められます。<br>・特別支援学級の１クラスの最大人数は８人であり、それぞれ学年や障がいの程度が違うため、個別に教育課程を組み、学習を進めていく上で支援員の存在は欠かせません。<br>・障がいがあってもなくても、子どもたちは可能な限り共有できる学習環境で育つことが大切です。また、保護者が地域の学校への通学を希望することも尊重されるべき選択の一つです。学校教育は、児童生徒一人ひとりへの対応が基本であることから、必要な学校生活サポーターは可能な限り配置していただくことを願います。<br>・児童生徒の増加に対応するため、学校生活サポーターを増員することは、目の届く活動を行うために重要な対応だと思います。外国人児童生徒の増加は現実的に難しい課題ですので、市長部局にも幅広い支援を積極的にお願いするべきと考えます。<br>・学校生活サポーターの増員は必要だと思いますが、それでも手が足りていないという話も聞きます。障がいの程度によるとは思いますが、普通学級の中で児童生徒同士が支え合えるように、理解促進・知識習得に力を入れることで、教職員の負担軽減と同時に、児童生徒の成長につなげる方向に力を入れるべきではないでしょうか。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>必要に応じた語学相談員の配置（施策５）</td><td>担当課<br>学校教育課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">日本語教育が必要な児童生徒の支援体制において、新たにベトナム語の語学相談員を配置し、通訳、翻訳、学習支援、進路相談等を行うことにより、外国人児童生徒の教育の充実を図ります。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・平成 30 年度から、語学相談員などのマネジメント機能を強化するため、日本語初期教室室長を配置しています。また、令和４年度は、ポルトガル語６人、スペイン語５人、タガログ語６人、中国語３人、ベトナム語１人、ほか１人の計 22 人の語学相談員（日本語初期教室を含む。）を配置しました。<br>・日本語指導員を日本語初期教室２人、巡回２人の計４人配置し、日本語の指導を行いました。<br>・来日直後で日本語指導が必要な児童生徒を対象に、日本語初期教室（にじっこ教室）で約３ヶ月間、集中的に日本語や日本の学校生活におけるルールを指導するとともに、母語の個別指導も実施しました。
<table>
<tr><td rowspan="2">場所</td><td colspan="3">入室児童生徒数</td></tr>
<tr><td>R4 年度</td><td>R3 年度</td><td>R2 年度</td></tr>
<tr><td>にじっこ教室（大城小学校内）</td><td>13 人</td><td>9 人</td><td>11 人</td></tr>
<tr><td>分室（適応指導教室カルミア１階）</td><td>30 人</td><td>18 人</td><td>8 人</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td colspan="2">・日本語が不自由な児童生徒が増加傾向にあります。また、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語以外の言語の児童生徒が年々増えており、多言語化が進んでいます。
<table>
<tr><td>項目</td><td>ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語</td><td>ｽﾍﾟｲﾝ語</td><td>ﾀｶﾞﾛｸﾞ語</td><td>中国語</td><td>その他</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>R4 年度</td><td>353 人</td><td>194 人</td><td>284 人</td><td>49 人</td><td>76 人</td><td>956 人</td></tr>
<tr><td>R3 年度</td><td>347 人</td><td>206 人</td><td>277 人</td><td>54 人</td><td>66 人</td><td>950 人</td></tr>
<tr><td>R2 年度</td><td>347 人</td><td>215 人</td><td>295 人</td><td>55 人</td><td>73 人</td><td>985 人</td></tr>
</table>
※その他（13 ヶ国語）：英語、韓国語、ウルドゥ語（パキスタン）、インドネシア語、ベトナム語など<br><br>・令和２年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な増加はありませんでしたが、令和元年度の出入国管理法の改正に伴い、今後、日本語指導が必要な児童生徒が増えていく可能性があります。</td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 今後の取組の方向性 | ・多言語化に対応するため、日本語初期教室の体制の増強を検討していく必要があります。<br>・出入国管理法の改正の影響を注視し、多くの児童生徒が同じ時期に集中して日本語初期教室に入室を希望した場合に対応できるよう、新たな施設の確保を検討します。<br>・語学相談員に日本語能力検定の受験を勧めるなど、能力・意欲の向上に努めます。 |
| 評価委員の意見等 | ・日本語支援を必要とする児童生徒が増加する中で、対応できる体制づくりが求められます。<br>・ニーズの拾い上げ（スクリーニング）のプロセスに対する支援も必要です。<br>・子どもの語学などの学習能力は大いなるものがあります。当初日本語に馴染むために特別な教室を用意することは必要ですが、週に１度くらい地元の普通教室に登校させて、学校の日常を体験して、日本語学習へのモチベーションが上がるようなプログラムもあるとよいと思います。<br>・日本語教育が必要な児童生徒数が多い小牧市では、語学相談員が来校し、翻訳作業や児童生徒・保護者との面談時の通訳で、学校現場の助けとなっており、今後も充実させていただきたいです。<br>・ＳＤＧｓでは多様性を受け入れていくことが重要となるため、取り組んでいくべき課題と考えられます。一方で、十分な受け入れ体制が整わずに規模を広げると、一人ひとりへの接し方が疎かになる懸念があるため、規模の拡大と教育の充実性はバランスをみながら取り組んでください。<br>・日本語初期教室の期間内に日本語に馴染めなかった子が、その後の学校生活に苦労し、学校に通いづらくなるという話を聞いたことがあります。個人差はありますが、できる限り切れ目のない支援が必要と考えます。 |

## 基本目標２　認め合い高め合う豊かな心と、健やかな体の育成

✎ 国や郷土を愛する心と自己肯定感を養うとともに、いのちを大切にする心や他者を思いやる心を育みます。

✎ 体力の向上や学校給食を通じた食育、読書活動の推進など、心身の健全な成長を支えます。

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>児童生徒の心のケアの実施（施策６）</td><td>担当課<br>学校教育課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">スクールソーシャルワーカーを増員し、貧困やネグレクト、ヤングケアラーなどといった家庭環境に要因がある児童生徒の支援体制を強化します。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・スクールソーシャルワーカーは平成 27 年度に 1 人配置され、平成 30 年度からは 2 人配置となり、令和 4 年度からは 3 人配置となりました。<br>・スクールソーシャルワーカーの配置人数が増え、より多くの学校に派遣できるようになったことで、各校でのスクールソーシャルワーカーに対する理解度が深まり、より連携してケースに対応できるようになりました。
<table>
<tr><td></td><td colspan="3">スクールソーシャルワーカー活動実績</td></tr>
<tr><td></td><td>R4 年度</td><td>R3 年度</td><td>R2 年度</td></tr>
<tr><td>スクールソーシャルワーカー人数</td><td>3 人</td><td>2 人</td><td>2 人</td></tr>
<tr><td>訪問活動回数</td><td>976 回</td><td>582 回</td><td>539 回</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td colspan="2">・ひとり親や貧困の家庭などの増加により、支援が必要な子どもや家庭が抱える課題や問題は多岐にわたり、解決には多くの時間や人員などを要します。<br>・学校と関係機関（警察・児童相談所・福祉事務所・市役所関係部署など）の連携を密にする必要があります。</td></tr>
<tr><td>今後の取組の方向性</td><td colspan="2">・学校と情報共有し、早期対応に心がけていきます。<br>・より多くの学校にスクールソーシャルワーカーを派遣できるようにするため、令和５年度は１人増員し、４人体制とします。</td></tr>
<tr><td>評価委員の意見等</td><td colspan="2">・スクールソーシャルワーカーの増員は引き続き重要です。<br>・保護者に対するスクールソーシャルワーカーの存在や役割の周知、利用に対する心理的障壁を取り除く工夫を期待します。<br>・貧困やヤングケアラーなどの家庭環境の問題は、ＮＰＯなど支援団体との連携も必要でしょうから、支援団体の情報を家庭や児童本人に伝え、支援を受けやすくする必要があります。<br>・スクールソーシャルワーカーの増員はとても助かります。研修な</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| | どで現場での対応力アップを図っていただきたいです。<br>・家庭環境の問題は外から見えにくいことが多く、また、児童生徒本人も認識していないことも多いと思います。その中でスクールソーシャルワーカーは重要な役割を担っていると言えますが、学校や関係機関との連携や役割分担を明確にして取り組むことで幅広い児童生徒の支援に繋がるのではないかと考えます。<br>・学校や公共施設だけでなく、市民団体や少し身近な児童館などと連携して、未然に心のケアや実態把握に努めることが大切だと思います。心のケアは支援感を出さない、心に寄り添った関係作りが大切だと思います。地域の力にもっと頼るべきと考えます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>情報モラルの育成（施策７）</td><td>担当課<br>学校教育ＩＣＴ推進室</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">家庭にも協力を仰ぎながら、児童生徒及び教職員が情報モラル及び情報セキュリティについて学ぶ機会をつくり、情報のもつ力を正しく理解し、適切に判断できる力を磨きます。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・小学校の低学年からタブレットＰＣを使用するときのルール、インターネットの安全な使い方、ゲーム依存の怖さなど情報モラル教育の指導に取り組んでいます。<br>・ＩＣＴ教育パイオニア校である大城小学校で、愛知県警による情報モラル教室を開催し、小学５・６年生を対象に、インターネットを安全に使用するための約束について指導しました。<br>・学校と保護者の共通理解を図るため、「ＩＣＴしんぶん」としてリーフレットを３回発行し、家庭でタブレットＰＣやスマートフォンなどの利用時間など守るべきルールを決めて、子どもと話し合うことの大切さについて周知啓発しました。<br>・各学校の教員で構成されるＩＴ活用研究委員会において、学年・指導事項・指導を行う教科例などを体系的にまとめた「情報モラル指導カリキュラムチェックリスト」を作成し、全小中学校に周知しました。<br><br>◆パイオニア校アンケート結果
<table>
<tr><td>項目</td><td>R3年2月</td><td>R4年2月</td><td>R4年12月</td></tr>
<tr><td>インターネットやメール、ＳＮＳなどを利用するときのルールやマナーに気をつけていると感じている児童生徒の割合</td><td>98.2%</td><td>98.2%</td><td>98.5%</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td colspan="2">・クラウドサービスを活用する社会において、児童生徒が自身のＩＤ・パスワードなどの個人情報や他者の情報などを適切に管理できるよう、情報モラル教育を充実する必要があります。<br>・従来の情報モラル教育では、大人から見て危険な行為などを禁止したり、制約をかけたりすることが主な内容でしたが、これからのデジタル社会においては、子ども自身が考えて行動できる力を育成するデジタル・シティズンシップ教育が求められています。</td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 今後の取組の方向性 | ・「情報モラル指導カリキュラムチェックリスト」を踏まえ、子どもたちの発達段階に応じて体系的に指導したり、子ども自身がタブレットの使用ルールづくりに参画したりして、情報モラル教育を充実します。<br>・教員の指示がなくても、子ども自身が主体的・自律的にＩＣＴを活用できるようにデジタル・シティズンシップ教育を推進します。 |
| 評価委員の意見等 | ・発達段階に応じた学年別系統的な指導が課題です。デジタル・シティズンシップ教育を通して子どもの自律性を伸ばす方策はとても大切であり、それを実現する手立て（児童生徒用のチェックリスト）などの研究も望まれます。<br>・インターネットの炎上などのトラブル事例をもって、子どもたちに使い方を考えさせる機会があってもよいと思います。<br>・児童生徒が自主的に考えて行動できるように、今後とも取組を進めてください。<br>・情報モラル教育は、学校だけが担うものではないと考えます。家庭への啓発は、学校からも行っていますが、今後も「ＩＣＴしんぶん」などで市からも周知啓発を引き続きお願いします。<br>・昨今はインターネット上の情報の危険性が、大人でも気付かないほど巧妙になっています。いたちごっこの部分もありますが、子ども自身が主体的・自律的に考えて判断する教育は重要で、子どもの頃に情報モラル教育を学ぶことは人間としてのモラル育成にもつながると考えます。<br>・事件に巻き込まれたり、問題行動によって社会的制裁や罰則を受けたりした人の事例をもっと生々しく、過激なくらい伝えて、危機意識を持ってもらうことも必要だと思います。ネット上でバッシングする側に焦点を当てて、その行動が自分や相手に、どういう影響を与えるのかをもっと強く伝えるべきだと思います。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| 具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号） | 栄養教諭・学校栄養職員等による食育・給食指導<br>（施策１０） | 担当課<br>学校給食課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | 望ましい食習慣や食生活を習得させる食育指導の充実を図るとともに、給食に地元農産物を取り入れ、地元農業や郷土料理等、食に対する理解を深めます。 | |
| 達成状況 | ・栄養教諭４人、栄養職員２人により、市内小学校の３学年及び中学校の１学年の全クラスを目標に市内各校を巡回し、家庭科の時間などを活用して野菜の摂取量などの栄養バランスや小牧の特産物などの食育指導を行いました。<br>・学校給食における地産地消については、地元産の食材を取り入れ、地元農業や郷土料理への関心を高める取組を行いました。（センターごとの対応で延べ70回程度実施）<br>・6月、11月、1月の年3回「愛知を食べる学校給食週間」と位置付けて、愛知県産や小牧産の食材を集中して提供し、校内放送や給食だよりを通じて特産物の由来や栄養面などの指導に努めました。 | |
| 課　　題 | ・栄養教諭や栄養職員は学校と給食センターの兼務であるため、指導のための十分な時間をとることが難しい状況です。<br>・農産物生産者の高齢化や天候不順などで、供給量や質の安定的確保が年々困難になってきています。<br>・食物アレルギーを持つ児童生徒が増えており、その現状を踏まえた食育・給食指導が必要となっています。<br>・物価高騰においても栄養量の確保が必要となります。 | |
| 今後の取組の方向性 | ・栄養教諭や栄養職員による食に関する指導に加えて、他の教職員の食に関する指導や給食委員の啓発に活用できる媒体やポスターなどの作成・配布に努めます。<br>・栄養教諭や栄養職員による指導機会の確保のため、ＩＣＴの活用を含む効率的な実施方法を検討します。<br>・農産物生産者と連絡を密に行い、給食食材の提供可能な時期や供給量を考慮しつつ、学校給食献立作成を進めていきます。<br>・食物アレルギー対応として、特定原材料を除く献立やユニバーサル給食など、できるだけ皆が同じ給食を食べる機会を提供することで、食物アレルギーに対する意識付けを行います。<br>・オーガニック食材を使用し、環境にも意識を持たせます。<br>・定期的に物価変動に伴う適正な給食費の検討を行います。 | |
| 評価委員の意見等 | ・食育については、栄養教諭による指導は欠かせないものであるが、さらに学校の教育課程上の位置づけを明確にしつつ教科等横断的な視点も重要であり、カリキュラム・マネジメントが適切にな | |

| | |
|---|---|
| | される必要があります。<br>・各学校のモニターを活用して、Ｚｏｏｍなどで給食前に、当日の栄養的な意義などを、数分間放送するなどの方法で、給食準備中の児童に伝える方法もあるのではないでしょうか。<br>・栄養教諭が勤務している学校では、毎日のアレルギー対応を栄養教諭が行い、養護教諭や担任の負担が軽減されています。<br>・子どもの頃は、栄養があるから食べるのではなく、美味しい、楽しいといった感情による動機付けが大きいと思います。食育・給食指導の中に、「美味しい」「楽しい」「面白い」などのポジティブな一面も取り入れていただけると、子どもも興味を持つのではないかと考えます。 |

## 基本目標３　未来につなげる、安全で充実した教育環境づくり

✎ 放課後などの学習支援や経済的な支援を充実するなど、一人ひとりのこどもの学びを保障し、教育の質を高めます。

✎ 学校施設の整備など、すべてのこどもが安心して学ぶことができる環境を整えます。

| 具体的な取組（教育振興基本計画の施策番号） | 児童生徒に対する学習支援の実施（施策１１） | 担当課<br>こども政策課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | 「駒来塾」を開設し、学習意欲があっても学力の定着が進んでいない中学生を対象に、教員ＯＢなどの協力を得て、学習支援活動に取り組みます。 | |
| 達成状況 | ・令和元年度より全中学校区を対象として、市内 4 地区で実施しており、学校の協力のもと、全生徒に募集チラシを配布するとともに、福祉総務課及び学校教育課と連携し、生活保護世帯、児童扶養手当受給者及び就学援助費受給者へ働きかけを行いました。<br>・令和 3 年度より、できるだけ新規生徒が学ぶ時間を取れるよう、入塾の時期を 1 ヶ月前倒ししました。<br>・令和 3 年度に引き続き、夏休み終了後に追加募集を実施し、13 人の追加入塾がありました。<br>・4 教室合わせて 74 人の参加があり、基礎学力に合わせた個別の学習支援を実施しました。<br>・参加している生徒は、母子（父子）家庭をはじめ、外国籍、不登校など、それぞれの事情を抱えており、また、学習理解度の差もあるため、個々の生徒にあわせた対応を心がけています。<br>・参加する生徒や保護者を対象としたアンケート結果から満足度は高く、徐々に勉強する習慣が身についてきている様子がうかがえました。また、講師と生徒、生徒同士などの交流により、お互いの成長を育む居場所づくりにもなりました。<br>・令和 4 年度は当初の予定通り年間 42 回の開催ができました。<br>・令和 4 年度からの取組として、駒来塾を必要とする生徒が中学に進学後、すぐに入塾できるよう、モデル地区として東部地区の小学 6 年生を対象に見学会の参加者を募集しました。今回は応募が 0 件という結果になりましたが、生徒が中学に進学後、すぐに入塾ができるような仕組みを構築できるよう、引き続き、検討を進めていきます。 | |

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>開催日等</td><td>毎週木曜日　午後 6 時 30 分から午後 8 時<br>年間 42 回開催</td></tr>
<tr><td>参加料</td><td>無料</td></tr>
<tr><td>対象教科</td><td>数学、英語を中心に 5 教科</td></tr>
<tr><td>学習内容</td><td>宿題や教科書を持参しての自主学習を基本とし、学習支援員や学習サポーターが質問に答えながら学習を実施。各教室にてテスト後の復習や補充プリントなどを実施することもある。</td></tr>
<tr><td>学習体制</td><td>各教室とも学習支援員 2～3 人、学習サポーター2～3 人の体制で、講師 1 人につき生徒 2～3 人を担当。<br>講師については、登録制によるローテーションを組んでいる。</td></tr>
</table>
【東部地区】<br>
場　　所：東部市民センター学習室・視聴覚室<br>
参加生徒：16 人（篠岡中 6 人・桃陵中 4 人・光ヶ丘中 6 人）<br>
登録講師：10 人（学習支援員 8 人・学習サポーター2 人）<br><br>
【北里地区】<br>
場　　所：北里市民センター集会室<br>
参加生徒：12 人（北里中 6 人・小牧西中 6 人）<br>
登録講師：8 人（学習支援員 7 人・学習サポーター1 人）<br><br>
【味岡地区】<br>
場　　所：味岡市民センター視聴覚室<br>
参加生徒：22 人（味岡中 7 人・岩崎中 15 人）<br>
登録講師：10 人（学習支援員 6 人・学習サポーター4 人）<br><br>
【小牧地区】<br>
場　　所：中部公民館会議室 1・2<br>
参加生徒：24 人（小牧中 17 人・応時中 7 人）<br>
登録講師：13 人（学習支援員 9 人・学習サポーター4 人）
</td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td>・本来、駒来塾を必要とする生徒へ情報が届き、入塾できているのか懸念があります。<br>・母子（父子）家庭をはじめ、不登校傾向の生徒など、様々な事情を抱えている生徒がおり、継続して参加してもらえるような個々に応じた対応や働きかけが必要です。<br>・参加生徒が増加傾向にあるため、サポートする学習支援員や学習サポーターを確保することが必要です。</td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 今後の取組の方向性 | ・入塾しやすいよう、令和４年度に引き続き、定員に余裕があれば追加募集を行います。<br>・生徒への指導方法や運営など情報共有を図るため、定期的に塾長会を開催します。<br>・市内全地区が対象となり、地区の分割の必要性などを含む今後の運営について議論を進めるため、定期的に運営委員会を開催します。<br>・駒来塾を必要とする生徒が中学に進学後、すぐに入塾できる仕組みを構築します。<br>・教員を目指す大学生などの学習サポーターを確保するため、積極的に声かけなどを行います。 |
| 評価委員の意見等 | ・参加生徒も増えてきており、この施策の成果も上がってきているが、さらに潜在的なニーズを発掘し、より多くの子どもが希望を持って学べるように、さらに充実させることが求められます。<br>・駒来塾での大学生ボランティア活動が、教員志望学生のキャリア形成の一助となる側面をよりはっきりと強調することも、人員確保の方策として考えられます。<br>・保護者にとっても、ありがたい取組ですので、今後もぜひ継続していただきたいです。全生徒にチラシを配布すると同時に、保護者にも伝わるように小学校の卒業式や中学校の入学式の待機時間などで案内してはいかがでしょうか。また、教える側も市の広報などでもっと広く一般の方々にも発信してはいかがでしょうか。<br>・学習意欲のある生徒をサポートするよい取組です。<br>・学ぶ習慣・意識は子どもの間に身に付けておくと、大人になってからも考え方・行動の基盤となります。習慣・意識付けにこれからも積極的に取り組んでください。<br>・学びたいのに、金銭的理由で学べない子どもへの対応として、とても大切だと思います。開催時間を早め、家庭でのトラブルがある子どもも入塾できるとよいと思います。勉強だけが大切ではないこと、遊びの中での学びや生きる力の育成についても、もっと重要視してもよいと思います。生きることに窮屈そうな子どもや大人が多いと感じます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>こども夢・チャレンジ事業の展開（施策１３）</td><td>担当課<br>こども政策課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">こどもの将来等を育むきっかけとして様々な事業を展開します。<br>①学習支援事業「駒来塾」<br>②プログラミング講座<br>③市内産業見学会開催事業<br>④夢にチャレンジ助成金支給事業<br>⑤大学生等海外留学奨学金支給事業<br>⑥こども夢サポーター制度</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・「こども夢・チャレンジ No.１都市」の実現に向けて、こどもの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業を展開しました。<br>①学習支援事業「駒来塾」<br>※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策１１）を参照<br><br>②プログラミング講座<br>中部大学と連携し、デジタルのモノづくりを学ぶため、全４回の講座を小学 4～6 年生を対象に実施しました。
<table>
<tr><td>場所</td><td>開催日</td><td>参加者</td></tr>
<tr><td>中部大学</td><td>10 月 15 日（土）、10 月 22 日（土）、11 月 5 日（土）、11 月 12 日（土）</td><td>10 人（内訳）4 年生 5 人<br>5 年生 2 人<br>6 年生 3 人</td></tr>
</table>
<br>③市内産業見学会開催事業<br>小学 5･6 年生及び中学生を対象に、地元企業などへの愛着を育む機会として、市内企業の見学や職業体験を行いました。
<table>
<tr><td>開催日</td><td>参加者</td><td>見学・体験先</td></tr>
<tr><td>7 月 26 日（火）</td><td>5 人</td><td>小牧消防署　地震体験、防火衣・放水体験</td></tr>
<tr><td>7 月 28 日（木）</td><td>13 人</td><td>午前：ＣＫＤ株式会社　工場見学<br>午後：有限会社浅野木工所　工場見学</td></tr>
<tr><td>8 月 3 日（水）</td><td>7 人</td><td>小牧郵便局　窓口見学、ポスト開かん見学など</td></tr>
</table>
<br>④夢にチャレンジ助成金支給事業<br>25 歳以下の高校、大学などの在籍者を対象に、自分の夢を実現するための計画を募集し、公開プレゼンテーションによる審査を行い、優秀者に助成金（上限 1 件 30 万円）を支給しました。<br>対象者は市内在住、在学の満 15 歳以上満 25 歳以下の高校生、大学生、社会人などであり、グループ単位での応募も可能です。<br>また、活動期間は単年度もしくは、翌年度末まで可能です。</td></tr>
</table>

| 交付決定件数 | 交付実績 | 内容 |
|---|---|---|
| 1件 | 262,235円 | 「【ダンス】【吹奏楽】【ファッションショー】のステージ開催」<br>1団体　助成額262,235円 |

さらに、この制度を将来活用していただけるよう、その契機として中学生を対象とした夢を語る発表の場「夢にチャレンジ発表会」を開催しました。

| 応募者 | 発表者 | 内容 |
|---|---|---|
| 1人 | 1人 | 感覚過敏の方に寄り添える人になりたい |

⑤大学生等海外留学奨学金支給事業

海外の大学に、3ヶ月以上留学しようとする大学生等に、留学先の国や地域に応じて、12回を上限に、月額4万～5万円を支給しました。

対象者は市内在住の満15歳以上満25歳以下の高校生、大学生、社会人などであり、所得基準については、日本学生支援機構の第二種奨学金支給基準を準用しています。

令和4年度は8件の申請があり、7件を決定しました。令和4年度に留学をし、奨学金を支給したのは12件（3,937,766円）でした。

| | 人数 | 留学先 |
|---|---|---|
| 高校生 | 4人 | アメリカ、カナダ、ベルギー |
| 大学生 | 6人 | アメリカ、カナダ、イギリス、台湾 |
| 専門学校生 | 1人 | カナダ |
| 大学院生 | 1人 | カナダ |

⑥こども夢サポーター制度

市とともにこどもの夢を応援する団体や企業を募り、こども夢サポーターとして登録し、登録証の交付とこまき山ぬいぐるみを贈呈するとともに、市のホームページで各登録者の取組を紹介しました。

【登録数】（各年度末現在）

| R4年度 | R3年度 | R2年度 | R元年度 | H30年度 | H29年度 | H28年度 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1団体 | 0団体 | 3団体 | 4団体 | 7団体 | 32団体 | 26団体 | 73団体 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 課　　題 | ①学習支援事業「駒来塾」<br>※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策１１）参照<br><br>②プログラミング講座<br>③市内産業見学会開催事業<br>・市内企業や大学と調整を図り、安全、安心に実施できる内容とする必要があります。<br>・見学する企業が固定化されており、新たな受入先の企業を検討する必要があります。<br><br>④夢にチャレンジ助成金支給事業<br>⑤大学生等海外留学奨学金支給事業<br>・夢に向かってチャレンジしようとしている方や海外へ留学したいと考えている方へ制度の情報が届いているか懸念があります。引き続き、実績報告会を開催するなど制度の内容を周知し、継続的な応募者の増加につなげていく必要があります。<br><br>⑥こども夢サポーター制度<br>・応募件数が少ないため、事業の周知を図り、広報などで募集を呼びかけ、知名度を高める必要があります。<br>・制度の趣旨に賛同して登録していただいた後、こども夢サポーターを市としてどのように活用していくのかが明確ではありません。<br>・登録団体がこどもたちの夢の実現に向けた支援活動を、具体的に取り組めるような仕組みづくりを検討する必要があります。 |
| 今後の取組の方向性 | ①学習支援事業「駒来塾」<br>※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策１１）参照<br><br>②プログラミング講座<br>③市内産業見学会開催事業<br>・こどもたちが将来の希望や夢を持てるよう、その契機となるような取組を検討します。<br><br>④夢にチャレンジ助成金支給事業<br>⑤大学生等海外留学奨学金支給事業<br>・継続的に応募があるよう、活動内容や制度について広報やホームページ、ＳＮＳでの周知に加え、活動した方による実績報告会を開催します。<br>・「夢にチャレンジ発表会」の効果を踏まえつつ、「夢にチャレンジ助成金」の仕組みについて、引き続き検討を進めます。 |

| | |
|---|---|
| | ・社会人留学や語学留学の応募状況などを踏まえ、海外留学の夢を持つ若者への支援につながる制度となるよう引き続き検討を進めます。<br><br>⑥こども夢サポーター制度<br>・ホームページ上や広報にて制度をわかりやすく紹介し、登録のメリットを明確にしていくとともに、こども夢サポーター制度についてあらためて整理し、効果的な制度として活用に向けた検討を行います。 |
| 評価委員の意見等 | ・大学生等海外留学奨学金支給事業については、人数も増加しており、事業として定着してきています。留学経験を周りに広げることで、さらに多くの若者が世界に飛び立ってほしいです。一部に人数が少ない企画もあり、参加者数が増えるような広報も必要であるといえます。<br>・応募者増のための取組を期待します。<br>・内容が多岐に渡り分かりにくい事業です。<br>・こども夢サポーターは、団体や企業だけでなく、もっと広く浅く募集してはいかがでしょうか。<br>・夢を持つ若者が、経済的な理由から、夢をあきらめることがないよう、サポートしていくことは大きな意義があるものと考えます。<br>・こどもをサポートするための制度を、大人だけで考えているので、こどもの心に響きにくいのではないのでしょうか。こども自身が「こんな制度があれば使いたい」と思うものが何なのか、こどもたちに声を上げてもらって、それを実現できれば、必然的に利用者が増えると思います。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| 具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号） | 学校施設の改修（施策１４） | 担当課<br>教育総務課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | 老朽化・狭隘化が進んでいる小牧南小学校の改築に向け計画的に事業を進めます。令和元年度に実施した実施設計に基づき、改築工事を令和３年度に引き続き実施し、旧校舎・体育館の解体、外構工事を行います。また、小学校（８校）の特別教室へのエアコンの設置工事を実施するなど、学校施設の計画的な改修に取り組みます。 | |
| 達成状況 | 【小牧南小学校改築】<br>・令和３年度に引き続き改築工事を実施し、令和５年３月に旧校舎・体育館の解体、外構工事が完了しました。<br><br>【特別教室へのエアコン設置】<br>・エアコンがない小学校８校の特別教室へのエアコン設置工事を実施し、全ての小中学校の普通教室・特別教室へのエアコンの設置が完了しました。<br><br>【トイレの洋式化】<br>・小学校２校のトイレ改修工事を実施し、トイレを和式から洋式に改修しました。 | |
| 課　　題 | ・学校施設全体が老朽化しているため、児童生徒が安全・安心で快適に学校生活を過ごすことができるよう、施設の整備を実施する必要があります。<br>・米野小学校の老朽化や狭あい化が課題となっています。<br>・学校トイレの洋式化率は、76.8%であり、引き続き洋式化を進めていく必要があります。 | |
| 今後の取組の方向性 | ・老朽化した学校施設の状況を把握し、緊急度の高い箇所から計画的に改修を進めていきます。<br>・米野小学校の改築に向けた事業を計画的に進めていきます。<br>・トイレの洋式化が完了していない学校のトイレ改修工事を計画的に実施していきます。 | |
| 評価委員の意見等 | ・児童生徒の居心地がよい環境を、引き続き計画的に整備していくことが大切です。<br>・酷暑化が進んでいますので、子どもの安全の視点からエアコン設置完了は評価できます。<br>・全小中学校のトイレの洋式化を進めてください。老朽化した施設の改修に当たり、新しい教育モデルなどと連携した形で考えていただけるとよいです。<br>・特別教室にもエアコンが設置されたことで、音楽・理科・家庭・ | |

| | |
|---|---|
| | 図工等、特別教室で行うことの多い教科において、集中して学習に取り組める環境になりました。これまで冬場はファンヒーターがありましたが、夏場は劣悪な環境でした。<br>・和式トイレは、世の中に一定数残ってはいるものの、家庭や公共施設では、ほぼ洋式化が進んでいると認識しています。和式トイレへの子ども特有の思いはあると思うので、まずは全面洋式化を推進していただければ良いと考えます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td rowspan="2">具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td rowspan="2">ＩＣＴ機器の整備・充実（施策１４）</td><td>担当課</td></tr>
<tr><td>学校教育ＩＣＴ推進室</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">教育委員会事務局及び小中学校の教職員用コンピュータを更新します。<br>校内及び家庭学習において、紙の教科書よりも多くの情報をもつ学習者用デジタル教科書の効果的な活用について研究します。また、文部科学省が開発を進めている「学びの保障オンライン学習システム」の活用について研究します。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・校務支援用コンピュータとして、教育委員会事務局及び小中学校の教職員用のノートＰＣを更新しました。<br>・授業のオンライン配信用として、新たに iPad Air を各校 3 台整備しました。<br>・全校において、学習者用デジタル教科書、文部科学省ＣＢＴシステム及び学習ｅポータルを活用できる環境を整備しました。また、学習ｅポータル及び文部科学省ＣＢＴシステムの操作方法についてオンライン研修を実施しました。<br>・小中学校の図書室及び中学校の柔剣道場にアクセスポイントを追加整備しました。<br>・新たに保護者連絡アプリを導入し、保護者からの欠席連絡及び学校の配布文書などのデジタル化を 3 学期から開始しました。<br>・校内ネットワークの環境評価として、インターネットの速度調査及びアクセスポイントの比較調査を行いました。<br>・1 台の端末内に校務系及び校務外部接続系の 2 つのネットワーク環境を構築する手法について検証しました。<br><br>【令和 4 年度の整備機器】<br><table><tr><td></td><td>小学校</td><td>中学校</td></tr><tr><td>教職員用ノートＰＣ</td><td>333台</td><td>141台</td></tr><tr><td>校務外部接続系タブレットＰＣ（iPad Air）</td><td>48台</td><td>27台</td></tr></table></td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

【パソコンの配備台数（令和４年度末）】　　（次の表に続く）

| 区分 | 児童生徒１人１台分 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | ＧＩＧＡスクール構想分 | モデル校より移管 | PC 教室より移管 | 移動用より移管 |
| 小学校 | 8,323 台<br>(iPad) | － | － | － |
| 内 R4 年度更新 | － | － | － | － |
| 中学校 | 3,082 台<br>(Surface Go2) | 792 台<br>(Surface Go) | 360 台<br>(Surface Go) | 89 台<br>(Surface Go) |
| 内 R4 年度更新 | － | － | － | － |
| 合計 | 11,405 台 | 792 台 | 360 台 | 89 台 |

（前の表の続き）

| 区分 | PC 教室分 | 校務系分<br>(図書室含む) | 校務外部接続系分 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 176 台 | 730 台 | 670 台 | 9,899 台 |
| 内 R4 年度更新 | － | 333 台 | 48 台 | (381 台) |
| 中学校 | 369 台 | 448 台 | 425 台 | 5,565 台 |
| 内 R4 年度更新 | － | 141 台 | 27 台 | (168 台) |
| 合計 | 545 台 | 1,178 台 | 1,095 台 | 15,464 台 |

**課　　題**

・国・県の動向を踏まえつつ、学習者用デジタル教科書の効果的な活用について研究する必要があります。
・校内で各種クラウドサービスを快適に利用できるように、同時接続台数及び通信速度を向上する必要があります。
・令和 6～7 年度の児童生徒１人１台タブレットＰＣの次期更新に向けて、費用及び教育効果の両方から、端末本体及びソフトウェアの選定について検討する必要があります。
・将来の校務情報のクラウドサービス利用を想定し、教育ネットワークの在り方について検討する必要があります。

**今後の取組の方向性**

・全校において、学習者用デジタル教科書の効果的な活用について検証します。
・教室のアクセスポイントなど校内ネットワーク機器を更新し、高速で安定した通信環境を整備します。
・児童生徒１人１台タブレットＰＣの次期更新に向け、国・県の動向を注視しつつ、機種選定及び調達方法について調査研究します。
・校務支援システムのクラウド化に向けて、アクセス認証方法及びクラウドへのデータ保存について調査研究します。

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 評価委員の意見等 | ・次期更新に向けては、今後のＣＢＴや学習者用デジタル教科書の普及・活用も視野に入れつつ、ギガスクール構想以降の実際の活用方法を検証し、よりよいＯＳや環境の選択が求められます。特に、「学び合う学び」を促進する観点からの環境整備が望まれます。<br>・ＰＣのスペックと価格の妥当性については、市民が関心を持ちやすい点であるので、合理的な選定となるよう有識者の意見も取り入れながら検討してください。<br>・保護者連絡アプリの導入により、朝の電話対応が減ったり、配付する文書の印刷の手間が減ったりし、教員の多忙化解消に効果がありました。<br>・保護者との連絡用ネットワークシステムの効果的な活用が進むとよいです。教科書のデジタル化は慎重に導入方法の研究を進めてください。今後とも、ぜひ取組を継続してください。<br>・ＩＣＴ機器を活用した教育を推進するのは望ましいと思います。ただし、ＩＣＴ機器の長所を活かした学習であるとより良いと考えます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td rowspan="2">具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td rowspan="2">ＩＣＴを活用した学びの保障（施策１５）</td><td>担当課</td></tr>
<tr><td>学校教育ＩＣＴ推進室</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">非常時・緊急時を想定し、ＩＣＴを活用して家庭と学校をつないで学びを保障できるようにするため、小中学校の全学年において、定期的にタブレットの持ち帰りを行い、オンライン学習の実践を進めます。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・令和３年度３学期に試行実施した同時双方向型オンライン学習時のノウハウや課題などをとりまとめて、４月に全校に共有しました。<br>・非常時・緊急時を想定し、４月から全校で月１回以上の持ち帰りを実施し、学級閉鎖時には授業支援ソフトウェアなどを活用したオンライン学習を実施しました。<br>・新型コロナウイルス感染症などにより登校を控える児童生徒に授業のオンライン配信を実施しました。<br>・同時双方向型オンライン学習を見据えたウェブ会議システム活用研修を実施しました。<br><br>◆週１回以上タブレットを持ち帰っているクラスの割合
<table>
<tr><td></td><td>小学校</td><td>中学校</td><td>市全体</td></tr>
<tr><td>令和4年2月時点</td><td>34.9%</td><td>37.4%</td><td>35.5%</td></tr>
<tr><td>令和4年12月時点</td><td>30.0%</td><td>33.3%</td><td>30.9%</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td colspan="2">・感染症拡大などの非常時・緊急時においても、学校と家庭をつなぐオンライン学習などにより子どもたちの学びを保障する必要があります。</td></tr>
<tr><td>今後の取組の方向性</td><td colspan="2">・感染症拡大などの非常時・緊急時においても、同時双方向型のオンライン学習を実施できるように、ＩＣＴ支援員の支援を受けてウェブ会議システムなどの校内研修を実施するとともに、各学校においてＩＣＴ活用を推進する体制づくりを行います。</td></tr>
<tr><td>評価委員の意見等</td><td colspan="2">・月１回、持ち帰って、非常時に備えることは、良い試みです。<br>・家庭と結ぶオンラインシステムとウェブ会議の推進を期待します。<br>・一斉休校時に行ったオンライン配信のノウハウは、今後の非常時・緊急時にも活用できるものです。定期的に研修を行うなどにより、ＩＣＴを今後も活用していけるようにしてほしいです。<br>・義務教育は対面での学習が基本ですが、コロナ禍では非接触型の学習が求められました。そのため、オンライン学習のようなリモートでの学習形態が進められてきました。今後は、その経験を検</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| | 証した上でＩＣＴの有効的な利用を積極的に推進していただきたく思います。また、中央教育審議会が掲げているＧＩＧＡスクール構想の推進や、世界的にも喫緊の課題として取り上げられているチャットＧＰＴの活用についても国の動向を踏まえながら考えることも必要だと思います。<br>・ＩＣＴ機器を活用したオンライン授業の充実は良いと思いますが、緊急時のみを想定した準備では実践経験が不足すると思います。緊急時のみではなく、平穏な時期にもオンライン教育を実施すると良いと考えます。<br>・教科書の持ち運びやお知らせや提出の負担軽減、ペーパーレスのためにも、デジタル化はぜひ進めてほしいです。ただし、通信環境を整えられない家庭や技術についていけない保護者や子どもがいることも忘れてはいけないと思います。 |

## 基本目標４　家庭・地域・学校との連携による教育の推進

✎ 家庭教育・地域教育を大切にし、地域ぐるみでの教育、子育て、青少年健全育成活動を展開します。

✎ 家庭・地域・学校の連携を強化し、学校運営への多様な人材の参画・協力を推進します。

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>教育・保育の質の向上（施策１６）</td><td>担当課<br>幼児教育・保育課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">第一幼稚園の公開保育、小牧市幼年期教育連携推進会議を通じ幼稚園、認定こども園、保育園、小中学校の連携を推進し、幼児期からの発達過程に配慮した心の教育の充実に努めます。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・第 1 回の会議において、“接続”ということが 1 つの大きな課題としてあがり、第 2 回の会議では、その課題である“接続”をどう幼稚園、認定こども園、保育園、小中学校でシェアしていくか、どう市全体に広げていくかについて、第一幼稚園の公開保育での子どもの姿を振り返りながら考えることができました。<br>・第 2 回幼年期教育研修会では、コロナ禍で初めて幼稚園、保育園、小学校、中学校の保育士や教員が集まり、顔を見ながら情報交換するとともに、学びの接続と連続性について、改めて確認し合うことができました。
<table>
<tr><td>幼年期教育連携推進会議（2 回開催）</td><td>6 月　・意見交換<br>1 月　・第一幼稚園公開保育の振り返り<br>・今年度の活動のまとめと次年度への提言</td></tr>
<tr><td>第 1 回幼年期教育研修会（zoom によるオンライン形式）<br>『幼児教育と学校教育の連携』</td><td>幼稚園 1　保育園 8　小中学校 14<br>その他 1<br>計 24 人</td></tr>
<tr><td>第一幼稚園公開保育<br>『興味・関心から深い学びへ』</td><td>幼稚園 2　保育園 14　小学校 15<br>中学校 7　その他 9　計 47 人</td></tr>
<tr><td>第 2 回幼年期教育研修会（講義）<br>テーマ『子どもの姿からみる学びの連続性』</td><td>幼稚園 6　保育園 20　小学校 15<br>中学校 8　その他 3<br>計 52 人</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td colspan="2">・子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を共有し、連携・協働して育んでいくために、引き続き関係機関が互いに理解を深めることが必要です。そのためには、5 歳児から小学校 1 年生への架け橋期のカリキュラムの作成が必要となりますが、その前に顔の見える関係性を作り、子どもの姿から育ちや学びについ</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| | て語りあう機会、コロナ禍前のような交流の機会を復活することが大切です。 |
| 今後の取組の方向性 | ・幼稚園、認定こども園、保育園、小学校、中学校が連携することが重要であるため、講師の招へいや事例検討を通して、子どもたちの育ちや学びについての理解を深めていくことが必要です。また、幼稚園、認定こども園、保育園における遊びの中での学びを、どのように小学校、中学校における学習の中での学びにつなげていくのか、学びの接続と学びの連続性について考えていきます。今後も関係機関に対し積極的に周知を行い、会議や研修への参加を促していきます。 |
| 評価委員の意見等 | ・幼保小中の連携のための研修は意義深いといえますが、より多くの教員や保育士が参加できるようにする工夫も求められます。研修に参加した保育園や学校において、それぞれの園内、校内での共有も補完になると考えられます。<br>・セミナー形式だけにこだわらず、教員や保育士同士が互いに課題を持ち寄り対話できるような機会も設けていってください。<br>・今後とも継続して取組を進めてください。<br>・幼保・小・中（高）において、顔の見えるつながりがあると「接続」もうまくいきやすいと考えます。<br>・オンライン形式は効率的な方法ですが、面識のある者同士であるかどうかが有効性に大きく影響します。その点で、対面形式で「接続」を重要視する取組には期待できます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>放課後子ども総合プラン（施策１８）</td><td>担当課<br>こども政策課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">放課後児童クラブと放課後子ども教室が連携して、共通プログラムを企画・運営する仕組みづくりを推進します。令和３年度に市内２小学校で実施したモデル事業の評価・検証を踏まえ、令和４年度は６校で実施します。今後、段階的に実施校を増やします。</td></tr>
<tr><td>達 成 状 況</td><td colspan="2">・市内６小学校で合同の体験活動を実施しました。
<table>
<tr><td rowspan="2">学校名</td><td>年間実施回数<br>主な内容</td><td colspan="2">参加人数（延べ）</td></tr>
<tr><td>放課後子ども教室</td><td>児童クラブ</td></tr>
<tr><td>小牧小学校</td><td>6 回<br>折り紙、音楽鑑賞、観劇</td><td>74 人</td><td>120 人</td></tr>
<tr><td>三ツ渕小学校</td><td>7 回<br>工作のパフォーマンスと制作、運動</td><td>187 人</td><td>9 人</td></tr>
<tr><td>味岡小学校</td><td>6 回<br>すまいる祭り、ミニコンサート</td><td>88 人</td><td>260 人</td></tr>
<tr><td>篠岡小学校</td><td>3 回<br>工作、大道芸</td><td>32 人</td><td>74 人</td></tr>
<tr><td>小牧原小学校</td><td>4 回<br>バルーンアート、からだ遊び</td><td>75 人</td><td>87 人</td></tr>
<tr><td>光ヶ丘小学校</td><td>6 回<br>折り紙、切り絵講座、万華鏡</td><td>93 人</td><td>143 人</td></tr>
</table>
・小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会において令和４年度事業の評価･検証を行い令和５年度以降の事業計画を検討しました。
<table>
<tr><td>回数</td><td>実施日</td><td>主な議題等</td></tr>
<tr><td>第 1 回</td><td>6 月 2 日（木）</td><td>放課後子ども総合プランについて<br>実施校のスケジュールについて</td></tr>
<tr><td>第 2 回</td><td>11 月 22 日（火）</td><td>活動及びアンケート報告について<br>令和 5 年度事業について</td></tr>
<tr><td>第 3 回</td><td>2 月 15 日（水）</td><td>令和 4 年度実施報告について<br>令和 5 年度事業について</td></tr>
</table>
・令和４年度の事業実施を踏まえ、マニュアルを修正しました。<br>
・令和５年度は令和４年度実施６校に加え、村中・米野・一色・本庄・陶・大城小学校を加えた 12 校で行うこととしました。</td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 課　　題 | ・児童クラブは、児童が増加傾向にある学校については、引き続いて条例の基準を満たせるよう必要な対応を行う必要があります。<br>・従事者や活動場所の現在の確保状況では、国が示すような、すべての児童が放課後子ども総合プランに参加できる環境とすることは困難です。事業の円滑な実施のためには、現在の従事者だけでなく、外部のボランティア、有償の講師など様々な従事者を継続的に確保する仕組みづくりが必要です。<br>・実施校が増えることにより、従事者や講師の確保が難しくなる学校が出てくることが考えられます。 |
| 今後の取組の方向性 | ・令和５年度事業の評価・検証を通じて、令和６年度からの事業計画を検討します。<br>・「放課後子ども総合プランコーディネーター」を中心に、事業運営の改善を図りながら、児童クラブと放課後子ども教室との共通プログラムの仕組みづくりを推進し、どの学校も無理なく進められるようサポートしていきます。<br>・児童館では多種多様に創作活動や講師を招いての活動を行っていますので、児童館と積極的に連携していきます。 |
| 評価委員の意見等 | ・今後も、引き続き、放課後の児童の居場所を確保することが大切です。<br>・子どもたちの多様なニーズに応えられる受け入れ体制（スタッフ研修など）を整えていってください。<br>・よい取組ですが、各校で指導員不足となっており、人材の確保に苦慮しています。学校地域コーディネーターのなり手も見つけにくくなっています。<br>・現在の進捗状況から推察すると、来年度は全ての小学校で合同の体験活動が実施されることになるのではないでしょうか。実施内容を踏まえて、さらに体験活動が充実したものになることを期待しています。<br>・放課後子ども総合プランは、子どもの放課後の居場所として、様々な体験活動ができる場として重要な取組と考えます。<br>・体験活動プランの中でも、子どもたちが自由に過ごせる時間があることが、楽しんで参加するために、大切だと思います。 |

## 基本目標５　豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり

✎ 誰もが、学びたいときに学びたいことを学ぶことができる環境を整備します。

✎ 自らの学びを社会や地域に還元し役立てるようにするとともに、互いに学びあい育ちあう関係を創出します。

| 具体的な取組（教育振興基本計画の施策番号） | 市民講座の実施（施策２１） | 担当課<br>文化・スポーツ課<br>味岡・東部・北里市民センター |
|---|---|---|
| 内　　容 | 公募により市民が主体となって行う市民企画講座を実施するとともに、多様な分野の学習機会を提供するために、各公民館の企画による市民講座を実施します。 | |

**達成状況**

・下記の講座を実施しました。

【公民館企画講座】

| 公民館名（講座数） | 回数 | 内容 | 延べ受講者数 |
|---|---|---|---|
| 市公民館（10 講座） | 15 回 | 食育、ストレスマネジメント、防災、芭蕉のなぞ、オーケストラ、睡眠と健康、味噌作り、尾張名古屋の衣文化、尾張名古屋の暮らし、スマホ写真の撮り方（創垂館） | 406 人 |
| 東部市民センター（9 講座） | 19 回 | フラワーアレンジメント、シニアスマホ講座、シニア向け筋トレ、ニットポーチ、スキンケア、ノルディックウォーキング、情報モラル、万華鏡づくり、マカロンづくり | 215 人 |
| 味岡市民センター（3 講座） | 8 回 | クラシック音楽、からだと心の健やか講座、糸かけ曼荼羅アート | 114 人 |
| 北里市民センター（2 講座） | 2 回 | 手ごねパン、伊勢型紙 | 17 人 |

【市民企画講座】

| 公民館名（講座数） | 回数 | 内容 | 延べ受講者数 |
|---|---|---|---|
| 市公民館等（17 講座） | 80 回 | プログラミングゲーム（オンライン）、表現力（オンライン）、クラフトバンド、フラダンス、更年期を健康に、手打ち蕎麦、収納法、フレグランスデザイン、ボタニカルアート、日本画、歌謡曲、小説創作、メンズヨガ、気功マッサージ、麹で腸活、断捨離、ライアーハープ（創垂館） | 994 人 |
| 中部公民館（4 講座） | 21 回 | ペンと小筆、コーラス、ヨガとワークアウト、グラスアート | 298 人 |

（次の表に続く）

（前の表の続き）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 東部市民センター（5 講座） | 22 回 | 英国史、アートフラワー、足もみ健康法、世界遺産、クレイクラフト | 321 人 |
| 味岡市民センター（7 講座） | 36 回 | 筆もじ、エクササイズ、縄文時代、瞑想、パステルアート、体操、脳トレ | 563 人 |
| 北里市民センター（6 講座） | 30 回 | ウクレレ、ミニトランポリン、能楽、仏画・日本画、アイシングクッキー、歴史 | 389 人 |

◆市民講座年度別実績

| 項目 | | R4 年度 | R3 年度 | R2 年度 |
|---|---|---|---|---|
| 市公民館 | 延べ受講者数 | 1,400 人 | 1,144 人 | 540 人 |
| | 講座数 | 27 講座 | 24 講座 | 11 講座 |
| 中部公民館 | 延べ受講者数 | 298 人 | 675 人 | 345 人 |
| | 講座数 | 4 講座 | 12 講座 | 5 講座 |
| 東部市民センター | 延べ受講者数 | 536 人 | 456 人 | 342 人 |
| | 講座数 | 14 講座 | 9 講座 | 7 講座 |
| 味岡市民センター | 延べ受講者数 | 677 人 | 363 人 | 263 人 |
| | 講座数 | 10 講座 | 8 講座 | 5 講座 |
| 北里市民センター | 延べ受講者数 | 406 人 | 362 人 | 208 人 |
| | 講座数 | 8 講座 | 6 講座 | 4 講座 |

**課　　題**

・全体的に受講者の年齢が高い傾向にありますが、20 代や 30 代の熱心な受講者もいるため、若い世代の市民講座の認知度を高めていく必要があります。
・インターネットに精通していない市民には、引き続き、情報誌やチラシなどの紙媒体での周知を効果的に行う必要があります。
・ウィズコロナの生涯学習においては、オンラインでの講座開催も実践していく必要がありますが、オンライン講座に対応できる講師の応募が少なく、講座の内容にも偏りがあります。
・新型コロナウイルス感染症の影響により、生涯学習活動に取り組む市民の割合が、伸び悩んでいます。学ぶことの楽しさを伝えていく必要があります。

**今後の取組の方向性**

・ＳＮＳなどの情報ツールの便利な機能、動画添付やハッシュタグなどを効果的に使って、若い世代にアプローチしていきます。
・引き続き、情報誌「こまなび」やチラシ・ポスターなどの広報・配布を充実させます。
・オンライン講座の内容を充実できるように、人材の発掘及び育成に取り組みます。
・市民講座で学んだことを、講座が終わった後も継続して取り組んでいけるようサポートを行います。

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 評価委員の意見等 | ・学ぶことの楽しさを伝えることは大切ですが、そのための手立てを工夫する必要があります。<br>・市民講座の担い手養成のためのセミナーなどを、ＳＮＳ活用も絡めながら若者を取り込んでいってはどうでしょうか。<br>・市民企画講座が活発に今後も推進されることを期待します。<br>・興味深い講座があっても、生活（心）にゆとりがないと受講できません。大きな問題ではありますが、それも課題なのではないでしょうか。<br>・幅広い年代の方に支持されている活動とのことで、今後も継続を期待します。ＳＮＳでの発信については有効だと思いますが、なかなか一般の方に周知は難しいので、影響力・発信力のある方に協力をお願いするのも手段の一つかと思います。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>公民館等の生涯学習施設の環境整備<br>（施策２１）</td><td>担当課<br>文化・スポーツ課<br>味岡・東部・北里市民センター</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">施設老朽化等に対応し、施設設備の改修を行います。また、文化活動や学びの拠点である市公民館の展示場等について、展示機能の充実など多様なニーズに対応できるよう、改修・更新工事を行います。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・市公民館は昭和 46 年、中部公民館は昭和 56 年に建築され、老朽化が進んでいるため、施設を快適に利用していただけるよう設備などの改修のための設計を行いました。<br>・東部市民センターは平成元年、味岡市民センターは平成 7 年に、建築され、老朽化が進んでいるため、施設を快適かつ安全に利用していただけるよう設備などの改修工事・修繕を行いました。<br><br>市公民館<br>【市民会館・市公民館大規模改修工事設計】<br>・老朽化が進む市公民館トイレ、講堂舞台機構、講堂天井などを更新する設計を行いました。また、展示場・講堂の展示機能の充実が図られるよう、改修工事の設計を行いました。<br>・隣接する市民会館についても、市公民館と一体化した整備を行うための設計としました。<br><br>中部公民館<br>【中部公民館冷温水発生機等更新工事設計】<br>・熱源機の冷温水発生機が劣化しているため、更新する設計を行いました。<br><br>味岡市民センター<br>【駐車場安全対策工事】<br>・老朽化していた講堂下駐車場のグレーチングの改修工事を行いました。<br>【外壁等改修工事】<br>・老朽化に伴いタイル剥離の恐れがある外壁の改修及びスマート窓口開始に伴う支所改修工事を行いました。<br>【冷温水発生機更新工事】<br>・溶液漏れで使用不能となっていた冷温水発生機（3 号機）の更新工事を行いました。</td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| | 東部市民センター<br>【トイレ給排水管布設替等工事】<br>・老朽化していた給排水管の布設替及び和式トイレを洋式化する工事を行いました。<br>【昇降機更新工事】<br>・老朽化していたエレベーターを更新する工事を行いました。<br>【外壁改修工事（1 期工事）】<br>・老朽化に伴いタイル剥離の恐れがある外壁を改修する工事を行いました。<br>【舞台機構設備（電動吊物）修繕】<br>・老朽化していた舞台機構設備のうち、一部を取り替える修繕を行いました。 |
| 課　　題 | ・小牧市公共施設長寿命化計画に基づき、目標耐用年数まで快適に施設を利用するため、また、利用者の多様なニーズに対応できるよう計画的に維持修繕を行う必要があります。<br>・施設の利便性が向上するよう機能の充実についても検討する必要があります。<br>・市公民館の大規模改修工事は令和 5 年 11 月から 1 年間程度予定しているため、利用団体の活動場所の確保について、工事に支障が出ない範囲でできる限り配慮する必要があります。 |
| 今後の取組の方向性 | ・市公民館を安全・安心、また、快適に利用していただけるよう令和 5 年度、6 年度に大規模改修工事を行っていきます。<br>・市公民館大規模改修工事の工事期間・スケジュールなどについては、利用団体の日頃の活動などに支障が出ないようできる限り配慮し、工事業者と調整していきます。 |
| 評価委員の意見等 | ・工期や費用、その妥当性などが分かりやすく広く市民に周知されることを期待します。<br>・半世紀に及ぶ施設利用が今後も継続されるため、ぜひ整備を進めて利便性の確保をお願いします。<br>・改修工事により、利便性向上や強度アップが期待されます。<br>・目標耐用年数が、あと何年か分かりませんが、市民に安全・安心・快適に使用してもらう準備をすることは必要だと思います。市民は、安全・安心については使用時に特に意識しないで、当たり前の認識であることが多いので、快適の点で向上していただけると良いかと考えます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| 具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号） | 新施設予約システムの導入（施策２１） | 担当課<br>文化・スポーツ課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | オンライン予約やキャッシュレス決済などの機能を持たせた新たな施設予約システムを導入し、利用者の利便性向上を図ります。 | |
| 達成状況 | ・令和５年１月４日からオンライン予約やキャッシュレス決済などの機能を持たせた新施設予約システムが稼働しました。<br>・利用者へ事前登録の周知を行い、令和４年12月末の時点で1,542の団体と827人の個人利用者の事前登録申請がありました。<br><br>主な新機能<br>【オンライン予約】<br>・電話か施設窓口のみで可能であった施設予約が、インターネットを通じて24時間365日、利用者自身のスマートフォンやパソコンから予約が可能になりました。<br>【オンライン抽選】<br>・毎月初日に抽選会を各施設で行っていましたが、決まった日に施設へ行かなくてもオンラインで抽選の申し込みから当選確認まで可能になりました。<br>【キャッシュレス決済】<br>・決済手段は窓口現金のみでしたが、オンラインで予約した場合、クレジットカードによるオンライン決済が可能になりました。<br>【許可書などのペーパーレス化】<br>・利用時に施設へ提示していた許可書などの書類を省略し、スマートフォンなどの予約確認画面を提示することで利用可能になりました。 | |
| 課　　題 | ・インターネットへの接続環境がない利用者やスマートフォンの操作が慣れない利用者を取り残すことなく、全ての利用者が使いやすくなるよう運用などでカバーする必要があります。 | |
| 今後の取組の方向性 | ・利用者から寄せられるご意見を基に、利用者がより使いやすいよう改善に努めます。 | |
| 評価委員の意見等 | ・オンラインでの予約は、利便性の向上に役立つと思います。<br>・利用者の使いやすさが検討されて、この取組の継続改善を期待します。<br>・施設へ足を運ばなくても予約が完了するシステムは、利便性向上が図られており、操作に慣れれば高齢者や障がいのある方にとっても便利です。<br>・予約のオンライン化・支払いのキャッシュレス化は利用者にとってメリットが大きく、利用拡大に大きな効果があると思います。 | |

| | |
|---|---|
| | 一方で、課題にも書かれていますが、デジタル対応が苦手な方は予約が取りにくい状況になることも危惧されます。非常に難しい問題ですが、より良い取組に期待します。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>生涯学習を推進する人材育成講座の開催<br>（施策２２）</td><td>担当課<br>文化・スポーツ課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">学びの成果を地域活動などにつなぐため、人材育成のための講座を開催し、地域の生涯学習活動のきっかけづくりに取り組みます。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・下記の講座を実施しました。
<table>
<tr><th>内容</th><th>会場</th><th>定員</th><th>受講者</th></tr>
<tr><td>オンラインでつながろう①<br>選んで活用！オンラインツール</td><td>市民交流テラス<br>ワクティブこまき<br>アクティブルーム</td><td>30 人</td><td>17 人</td></tr>
<tr><td>オンラインでつながろう②<br>Zoom 主催者ビギナーのための how to 講座</td><td>小牧市公民館<br>視聴覚室</td><td>午前･午後<br>各 10 人</td><td>18 人</td></tr>
<tr><td>こまなびサロン×ワクティブこまき連携セミナー（活動のＰＲをして参加を広げよう）</td><td>市民交流テラス<br>ワクティブこまき<br>アクティブルーム</td><td>20 人</td><td>19 人</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td colspan="2">・講師によって経験の差があるため、講座の内容・テーマの設定が難しくなっています。<br>・講座で学んだことを個人や限られたグループで活かすことにとどまっている傾向があります。学びの成果を地域活動につなげていくための工夫を検討する必要があります。</td></tr>
<tr><td>今後の取組の方向性</td><td colspan="2">・初心者コースや経験者向け、あるいは両者の交流を目的とするなどテーマを絞った講座の設定、魅力ある講師の発掘に取り組みます。<br>・各地区の地域協議会や自治会に働きかけ、生涯学習を推進する役割を担う人に参加してもらえるような講座を検討します。<br>・学んだ成果や活動を地域活動で活かしていけるよう、ワクティブこまきと連携して講座の開催や周知に取り組みます。</td></tr>
<tr><td>評価委員の意見等</td><td colspan="2">・学ぶ側にいた人たちが、教える側にまわることができるよう、講座内容のデザインの仕方や効果的な話し方などを共有し、支援していく必要があります。<br>・特定の講座にフォーカスして、情報ガイド「こまなび」などで、その内容を特集するなどして、学びの成果の発信を検討してください。<br>・受講者が地域の人々に再発信する仕組みがあった方が良いですが、今後も取組を継続してください。<br>・定年延長により、地域活動を担う人材の確保が難しくなっていま</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| | す。<br>・生涯学習も時代によって変化していくべきと思います。これまでの講師の方達の功績も踏まえつつ、次世代の生涯学習のテーマを検討するべきタイミングかと考えます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>レファレンスサービスの充実（施策２３）</td><td>担当課<br>図書館</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">市民の日常生活や趣味、仕事に関する様々な課題を解決するため、適切な資料や情報の提供に努めます。調べものに役立つデータベースの提供やメールレファレンスの活用など、レファレンスサービスを充実します。</td></tr>
<tr><td>達 成 状 況</td><td colspan="2">・令和４年度のレファレンス件数は、14,474 件で年々増加傾向にあります。その内訳は、クイックレファレンスが 14,293 件と最も多く、次に絵本を中心とした読書相談が 118 件、文献複写を含めた調査レファレンスが 63 件でした。<br>・調査レファレンスは、郷土、歴史、特定の事例に関するレファレンスなど広範で多種多様な内容で、豊富な資料を活用し、専門的知識を有した司書がレファレンスを行いました。<br><br>【実績】レファレンス件数<br><table><tr><th>年度</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和元年度</td><td>6,383 件</td></tr><tr><td>令和２年度</td><td>4,320 件</td></tr><tr><td>令和３年度</td><td>14,002 件<br>（うちメールレファレンス：35 件）</td></tr><tr><td>令和４年度</td><td>14,474 件<br>（うちメールレファレンス：19 件）</td></tr></table><br>・利用者が、自分の調べたいテーマに関する資料や情報にたどり着くための調べ方を案内するリーフレット（パスファインダー）を作成し、図書館・各図書室に設置するとともにホームページに掲載しました。<br>【実績】パスファインダー作成件数：８件（郷土４件　児童４件）<br><br>・レファレンスサービスやデータベース活用方法をわかりやすく紹介する講座（出前講座）を開催しました。<br>【実績】４回<br><br>**※パスファインダー（pathfinder）とは**<br>**英語で「開拓者」「先駆者」の意味。図書館情報学において、特定のテーマに関する文献や情報の調べ方を提供するツールのこと。**</td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 課　　題 | ・レファレンス件数が増加傾向である中、引き続きレファレンス利用者に対する迅速な対応が求められる一方、職員の負担軽減に対する業務の効率化が必要である。 |
| 今後の取組の方向性 | ・レファレンスサービスを継続実施するとともに、その有用性をＰＲする取組を行います。また、利用者が自らレファレンス事例を検索し、関連本を予約できるシステムを導入し、順次、レファレンス事例の蓄積を進めます。 |
| 評価委員の意見等 | ・職員補充を検討してもよいのではないでしょうか。<br>・図書館のレファレンスサービスに直接つながるサービスや仕組みが求められるのではないでしょうか。今後も広く利用できるように継続してください。<br>・図書館の情報センターとしての役割を果たしていくために、レファレンスサービスについて周知していくことは今後も必要です。<br>・レファレンスサービスは充実することで調べ物の効率が良くなったり、新しい発見にもつながったりすると思います。検索サービスが図書館だけではなく、アプリなどを通じたレファレンスサービスができると、若年層の利用が活発になると考えます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| 具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号） | こまき市民交流テラス（ワクティブこまき）との連携（施策２４） | 担当課<br>文化・スポーツ課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | ワクティブこまきと連携して、生涯学習をきっかけに、地域活動などへつながる取組を推進します。 | |
| 達成状況 | ・小牧市内で市民活動・生涯学習活動を行っている人、これから行おうとしている人を対象に、活動を活性化したり、スキルアップを図ったりするための講座を開催しました。<br>・市内の生涯学習団体や市民活動団体の総合データベースとしてこまき団体情報ガイドブックを活用し、団体情報の収集や市民への情報提供を各公民館で行っています。<br>・相互で人材発掘したデータを一元化し、生涯学習市民講師データを共有しています。<br>・こまなびフェスティバルに参加しました。 | |
| 課　　題 | ・市民活動団体と生涯学習団体の関わりを活発にし、団体同士が連携して地域活動をする機会を増やしていく必要があります。<br>・こまき団体情報ガイドブックは、登録団体を増やし、情報をアップデートしていく必要があります。また、検索しやすくし、分類を工夫するなどして、迅速に必要な情報を取り出せるようにする必要があります。 | |
| 今後の取組の方向性 | ・団体同士が意見交換をしたり、情報共有したりできるような場づくりに取り組みます。<br>・こまき団体情報ガイドブックの活用促進のために、新規団体の登録や情報更新の働きかけを行います。<br>・地域のこれからの課題に向き合う地域活動に向け、相互に応援し合うつながりを作り、課題と向き合う人を育みます。 | |
| 評価委員の意見等 | ・団体同士の交流が進むことを期待しています。<br>・データベース化は、よい取組だと思います。<br>・今後とも取組の継続を期待します。<br>・生涯学習市民講師データは大変ありがたいです。<br>・生涯学習という表記について、個人個人で様々なイメージを持つと思います。次代を担う人材の育成は、どの業界でも重要課題ですが、生涯学習のイメージを一新することも検討いただけると幸いです。 | |

## 基本目標６　誰もが参加できるスポーツ活動の展開

✎　運動やスポーツを通して、あらゆる活動の土台となる基礎体力を育みます。

✎　生涯にわたって誰もがスポーツを楽しむことができる機会や環境をつくります。

| 具体的な取組（教育振興基本計画の施策番号） | スポーツ教室の開催（施策２５） | 担当課 |
|---|---|---|
| | | 文化・スポーツ課 |
| 内　　容 | 小牧市スポーツ協会や加盟競技団体等と連携して市民スポーツ教室を開催し、広く市民がスポーツに親しみながら健康や体力を増進する機会を提供します。 | |

**達成状況**

・小牧市スポーツ協会などと連携して、各種スポーツ教室を開催し、市民がスポーツに親しむ機会を提供しました。

| | 【スポーツ協会主催】 | R4 延べ参加人数 | R3 延べ参加人数 | R2 延べ参加人数 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | テニス（前期） | 135 | 中止 | 中止 |
| 2 | テニス（後期） | 109 | 中止 | 129 |
| 3 | 卓球（前期） | 204 | 中止 | 中止 |
| 4 | 卓球（後期） | 211 | 中止 | 117 |
| 5 | バドミントン（前期） | 93 | 中止 | 118 |
| 6 | バドミントン（後期） | 126 | 中止 | — |
| 7 | ランニング | 中止 | 38 | 49 |
| | 【市主催】 | | | |
| 1 | いきいきシルバースポーツ学級 | 355 | 192 | 294 |
| 2 | ノルディックウォーク講習会（1） | 33 | 中止 | 中止 |
| 3 | ノルディックウォーク講習会（2） | 23 | 31 | 中止 |
| | 合計 | 1,289 | 261 | 707 |

※ランニング教室は R4 中止。

| 地域スポーツ教室（地域スポーツ団体主催） | R4 | | R3 | | R2 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 実施校区数 | 延べ人数 | 実施校区数 | 延べ人数 | 実施校区数 | 延べ人数 |
| | 12 | 1,194 | 3 | 344 | 4 | 408 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 課　　題 | ・定員に満たない教室が多くある状況です。新型コロナウイルス感染症の影響により、運動機会が減少している市民などに向けて参加を働きかけていく必要があります。<br>・地域スポーツ教室は令和３年度と比較すると実施回数などが増加しましたが、地域によって実施状況に差が出ています。 |
| 今後の取組の方向性 | ・若年層や新規参加者を獲得するため、ＬＩＮＥなどのＳＮＳを活用し、スポーツ教室の情報を市民へ発信していきます。また、参加者のニーズを把握し、開催時期や時間、種目などを検討します。<br>・地域スポーツ団体やスポーツ推進委員などと連携して、ニュースポーツの普及を図るなど新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ地域スポーツの推進を図ります。 |
| 評価委員の意見等 | ・コロナの影響が減ったことが影響していると思われますが、参加人数が急増しており、成果が上がっていると思います。<br>・受講者の要望と開催側の方向性の歩み寄りがあるとよいです。今後とも必要な取組ですので継続を期待します。<br>・コロナの影響で運動することを控えていた方で、そろそろ体を動かしたいと思っている方も多くいらっしゃると思います。今、スポーツ教室の情報を発信することは有効であると思います。<br>・スポーツ教室に限らず、ニュースポーツについても、スポーツ推進委員の方々の努力に支えられて普及促進されています。そのことをスポーツ教室と同様に具体的な成果として、まとめて広報することも大切だと思っています。<br>・スポーツは健康のためにも重要ですので、ぜひ継続実施していただきたいと思います。若年層や新規参加者の獲得のためには、スポーツの種類も広げると良いと考えます。中年向けだとゴルフ、マラソン、ロードレースなど。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>こども対象のスポーツ教室の開催（施策２６）</td><td>担当課<br>文化・スポーツ課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">こどもたちが幅広くスポーツに親しむため、小牧市スポーツ協会や加盟競技団体等と連携し、各種目のスポーツ教室を実施します。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・親子ふれあい体操教室や小牧市スポーツ協会主催のジュニア体操教室などを開催し、こどもたちが楽しくスポーツに親しむ機会を提供しました。<br>・ジュニア体操教室は人気が高く、多くのこどもたちに参加してもらえるよう、実施回数を増やしました。
<table>
<tr><td></td><td>【スポーツ協会主催】</td><td>R4 延べ参加人数</td><td>R3 延べ参加人数</td><td>R2 延べ参加人数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>あそび親子運動（第 1 回）</td><td>36</td><td>中止</td><td>90</td></tr>
<tr><td>2</td><td>あそび親子運動（第 2 回）</td><td>26</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>3</td><td>かけっこ</td><td>56</td><td>中止</td><td>85</td></tr>
<tr><td>4</td><td>小学生初心者水泳</td><td>129</td><td>145</td><td>中止</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ジュニア体操（寺本明日香）（1）</td><td>59</td><td>39</td><td>中止</td></tr>
<tr><td>6</td><td>ジュニア体操（寺本明日香）（2）</td><td>47</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>7</td><td>ジュニア体操（寺本明日香）（3）</td><td>88</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td></td><td>【市主催】</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1</td><td>親子ふれあい体操教室（前期）</td><td>272</td><td>180</td><td rowspan="2">560</td></tr>
<tr><td>2</td><td>親子ふれあい体操教室（後期）</td><td>284</td><td>135</td></tr>
<tr><td></td><td>集計</td><td>997</td><td>499</td><td>735</td></tr>
</table>
※R3 はあそび運動教室を実施。（小学 4～6 年生を対象。延べ参加人数 24 人）<br>※R2 の親子ふれあい体操は 3 期開催分の合計。<br>※ジュニア体操⑴⑵はこどものみ対象。ジュニア体操⑶は親子対象。</td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td colspan="2">・あそび親子運動教室は親子を対象として、第 1 回は年長園児と保護者、第 2 回は小学校 1～3 年生と保護者を対象に開催しましたが、申込者数が定員に満たない状況です。周知の方法などを検討する必要があります。<br>・こどもたちにスポーツの楽しさを知ってもらい、継続してスポーツに取り組んでもらう必要があります。</td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 今後の取組の方向性 | ・教室に参加したこどもたちにジュニア育成活動などの周知を行い、短期的な教室で終わらせることなく継続して運動することができるよう案内していきます。<br>・引き続き、加盟競技団体やスポーツ推進委員などと連携し、こどもたちにスポーツの楽しさを知ってもらい、スポーツに関心を持ってもらうきっかけとなるよう努めます。 |
| 評価委員の意見等 | ・参加者数が増加しており、引き続き充実した取組に期待したいです。<br>・「あそび親子運動」という親子での体操教室ではなく、幼児のみの体操教室にすると、下のこどもがいて参加できない保護者もこどものみを参加させやすいのではないでしょうか。<br>・学校の部活動において様々な課題を抱えている今、地域でのスポーツ教室を活発に行っていくことは、とてもよいと思います。<br>・実施していることを知らなかったので、知っていたらこどもと参加したと思います。その意味では、周知の方法を改善されると良いと思います。ジュニア体操が人気なのは寺本明日香さんの貢献も少なからずあると思うので、イベント＋α（楽しさ）で開催していただけると参加のモチベーションが上がります。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| 具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号） | 地域部活動の検討（施策２６） | 担当課<br>学校教育課<br>文化・スポーツ課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | 休日の部活動を地域部活動として、地域の多様な指導者の活用を図るとともに、こどもたちの休日の運動機会を確保するため、地域部活動の導入について検討を進めます。 | |
| 達成状況 | ・学校部活動の地域移行を検討するため、小中学校部活動検討委員会などを開催しました。<br><br>令和 4 年 10 月 28 日（金）<br>第 1 回小中学校部活動検討委員会<br>議題：中学校部活動休日の地域移行について<br><br>令和 4 年 12 月 26 日（月）<br>第 2 回小中学校部活動検討委員会<br>議題：今後の「部活動のあり方の検討」の進め方について<br><br>※その他研究会を 2 回開催。 | |
| 課　　題 | ・生徒数の減少などにより学校単位の部活動を維持していくことが困難な状況にあります。<br>・競技経験のない部活動の指導や休日部活動の指導など教師にとって大きな負担となっています。<br>・学校部活動の地域移行に伴い、指導者の量を確保する必要があるとともに、指導者としての資質も高めていく必要があります。<br>・活動場所、用具の確保や責任の所在など、様々な課題を整理しておく必要があります。<br>・保険料や指導員への謝礼など、受益者負担について検討をする必要があります。 | |
| 今後の取組の方向性 | ・国、県の動向及び近隣市町村の状況を把握するとともに、市内小中学校の教員・外部指導者・関係団体・保護者・生徒などへアンケートを行い、部活動に対する考えや現状を把握します。<br>・引き続き、検討委員会で部活動のあり方について検討を進めていきます。 | |
| 評価委員の意見等 | ・部活動の地域移行が円滑に行われ、こどもたちの文化・スポーツに触れる機会が保障できるように留意すべきです。<br>・あくまで教育活動であるので、指導者の適性をしっかり吟味できるような仕組みを作ってください。<br>・今後も取組の継続を期待します。<br>・学校部活動については、多くの課題を抱えています。今後も早急 | |

| | |
|---|---|
| | に検討していく必要があります。<br>・「学校の働き方改革」の視点からも浮かび上がっている問題です。また、以前はジュニアクラブ化推進の中で「社会体育への移行」の視点としても捉えられた時期がありました。本市が立ち上げた「地域連携型部活動」もその流れに沿ったものでした。そのように本市が歩んできた部活動指導の歴史も踏まえ、文部科学省や中央教育審議会の動向も見据えながら、一定程度先を見通した推進計画が必要だと思います。<br>・小中学校の部活動についてはこどもたちだけでなく、教員の負担という点でも考え直す時期だと考えています。今後の取組として幅広くヒアリングをされることは素晴らしいと思いますが、実際に活動する児童生徒達の意見を尊重して欲しいと思います。<br>・部活動の地域移行は良いことだと思いますが、引き続き携わりたい教職員もいると思うので、地域の指導者として手を挙げられるようにするとよいと思います。指導者になる人が、一定の収入と職場の調整ができて、副業として成り立つように、制度の整備と企業などとの調整が必要だと思います。<br>・学校施設を有効活用してほしいです。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| 具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号） | スポーツ施設の環境整備（施策２８） | 担当課<br>文化・スポーツ課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | 新たな多目的グラウンドを整備することにより、市民がよりスポーツに取り組みやすい環境を整備します。 | |
| 達成状況 | ・フットサル及びテニスの兼用ができるコートの選定、照明の照度、雨水貯留施設など、各種仕様の検討を行いました。 | |
| 課　　題 | ・既存サッカー場やテニスコートの利用状況から、コートの割り振りなどの運用方針を検討する必要があります。<br>・近隣市町村を参考に適正な料金設定を検討する必要があります。 | |
| 今後の取組の方向性 | ・令和６年度の運用開始に向けて工事が順調に進行するよう監理・監督していきます。<br>・新たな施設を多くの方に利用していただけるようホームページ・広報などでの周知を行います。 | |
| 評価委員の意見等 | ・完成を楽しみにしている市民は多いです。<br>・スポーツ施設は利用しやすい環境整備が大切だと思います。利用者の立場から考え、施設そのものより、利用料金や駐車場施設の充実が鍵になると思います。<br>・気軽にスポーツが取り組めるインフラが整うことは、スポーツ推進に強く貢献すると思います。市主催で大会などを開催すると周知や利用者拡大に寄与するかもしれません。 | |

点検評価シート（令和４年度実績）

| 具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号） | 新施設予約システムの導入（再掲）（施策２８） | 担当課<br>文化・スポーツ課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | オンライン予約やキャッシュレス決済などの機能を持たせた新たな施設予約システムを導入し、利用者の利便性向上を図ります。 | |
| 達成状況 | ・令和５年１月４日からオンライン予約やキャッシュレス決済などの機能を持たせた新施設予約システムが稼働しました。<br>・利用者へ事前登録の周知を行い、令和４年12月末の時点で1,542の団体と827人の個人利用者の事前登録申請がありました。<br><br>主な新機能<br>【オンライン予約】<br>・電話か施設窓口のみで可能であった施設予約が、インターネットを通じて24時間365日、利用者自身のスマートフォンやパソコンから予約が可能になりました。<br>【オンライン抽選】<br>・毎月初日に抽選会を各施設で行っていましたが、決まった日に施設へ行かなくてもオンラインで抽選の申し込みから当選確認まで可能になりました。<br>【キャッシュレス決済】<br>・決済手段は窓口現金のみでしたが、オンラインで予約した場合、クレジットカードによるオンライン決済が可能になりました。<br>【許可書などのペーパーレス化】<br>・利用時に施設へ提示していた許可書などの書類を省略し、スマートフォンなどの予約確認画面を提示することで利用可能になりました。 | |
| 課　　題 | ・インターネットへの接続環境がない利用者やスマートフォンの操作が慣れない利用者を取り残すことなく、全ての利用者が使いやすくなるよう運用などでカバーする必要があります。 | |
| 今後の取組の方向性 | ・利用者から寄せられるご意見を基に、利用者がより使いやすいよう改善に努めます。 | |
| 評価委員の意見等 | ・オンラインでの予約は、利便性の向上に役立つと思います。<br>・利用者の使いやすさが検討されて、この取組の継続改善を期待します。<br>・施設へ足を運ばなくても予約が完了するシステムは、利便性向上が図られており、操作に慣れれば高齢者や障がいのある方にとっても便利です。<br>・予約のオンライン化・支払いのキャッシュレス化は利用者にとってメリットが大きく、利用拡大に大きな効果があると思います。 | |

| | |
|---|---|
| | 一方で、課題にも書かれていますが、デジタル対応が苦手な方は予約が取りにくい状況になることも危惧されます。非常に難しい問題ですが、より良い取組に期待します。 |

## 基本目標７　市民がともにつくる文化・芸術の振興

✎　文化・芸術の鑑賞機会を充実するとともに、市民の創作活動を支援します。

✎　市民と様々な文化団体との連携により、文化振興活動を支える体制を整備します。

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>身近で良質な鑑賞機会の充実（施策２９）</td><td>担当課<br>文化・スポーツ課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">こまき市民文化財団と連携し、バリアフリーコンサートやこまぶんフェスタなどの実施により、広く市民に良質な鑑賞機会を提供します。</td></tr>
<tr><td>達 成 状 況</td><td colspan="2">・障がいの有無や年齢に関係なく気軽にコンサートを楽しみ、音楽を通して相互理解を深める機会を提供することを目的に「バリアフリーコンサート」を開催しました。<br>・誰もが気軽に文化や芸術を楽しむことができるイベントとして「こまぶんフェスタ 2022 アートな 1 日～みる・きく・つくる～」を開催しました。<br>・生涯にわたって音楽文化に親しみ、心豊かな人間性を育むきっかけとなることを目的として、幼稚園・保育園・認定こども園の園児、小学生、中学生を対象に中部フィルハーモニー交響楽団による巡回演奏を実施しました。<br><br>【こまぶんフェスタ 2022 アートな 1 日～みる・きく・つくる～】<br><table><tr><td>開催日</td><td>8 月 21 日（日）</td></tr><tr><td>会場</td><td>市民会館、市公民館</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>603 人</td></tr></table><br>【幼稚園・保育園音楽鑑賞事業、小中学生オーケストラ演奏鑑賞事業】<br><table><tr><td>開催日</td><td>5 月～10 月</td></tr><tr><td>会場</td><td>市内 21 保育園、9 幼稚園、2 認定こども園、<br>4 小学校、市民会館ホール（2 小学校、3 中学校）</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>延べ 8,452 人</td></tr></table><br>【バリアフリーコンサート】<br><table><tr><td>開催日</td><td>2 月 4 日（土）</td></tr><tr><td>会場</td><td>味岡市民センター</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>358 人</td></tr></table></td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 課　　題 | ・文化芸術を通して相互理解を深めるため、年齢、性別、障がいの有無、国籍などに関わらず、鑑賞できる機会を提供し、普段文化芸術に触れる機会のない方に対しても、気軽に文化芸術に親しむきっかけを提供する必要があります。 |
| 今後の取組の方向性 | ・教育、福祉、多文化共生その他幅広い分野との連携により、誰もが参加可能な文化芸術の鑑賞機会をつくります。<br>・コンサートや公演情報が多くの方の目にとまるよう、ＳＮＳなどを活用し、内容を充実させます。 |
| 評価委員の意見等 | ・芸術との出会いとして、大切な機会であると思います。<br>・今後も活動の継続を望みます。<br>・中部フィルハーモニー交響楽団による巡回演奏は良質な音楽を聴く貴重な機会であり、児童生徒にも人気です。今後も続けてください。<br>・ＳＤＧｓの精神に則った非常に良い活動だと思います。今後もより充実したコンテンツを提供していただくことを期待します。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>アウトリーチ事業の実施（施策２９）</td><td>担当課<br>文化・スポーツ課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">ダンサー、ミュージシャン、落語家など、プロのアーティストが学校へ赴きワークショップ等を実施し、芸術的な表現やコミュニケーションに触れることで、こどもたちの創造力や表現力、コミュニケーション能力を育み、文化・芸術を地域に広く普及させます。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・こまき市民文化財団の主催により、プロのアーティストに依頼し、ワークショップを実施しました。<br><br>〇福祉施設へのアウトリーチ事業
<table>
<tr><th>アーティスト名</th><th>分野</th><th>訪問先</th><th>対象学年</th><th>人数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">棚川　寛子<br>加藤　幸夫</td><td rowspan="3">演劇</td><td>NPO 法人しっぷ</td><td>小学生～高校生</td><td>27 人（職員含む）</td></tr>
<tr><td>児童デイサービスメロディ</td><td>小学生～中学生</td><td>中止</td></tr>
<tr><td>（株）ママのハート</td><td>小学生低学年</td><td>16 人（職員含む）</td></tr>
</table>
<br>〇学校へのアウトリーチ事業
<table>
<tr><th>アーティスト名</th><th>分野</th><th>訪問校</th><th>対象学年</th><th>人数</th></tr>
<tr><td rowspan="2">桂　宮治</td><td rowspan="2">落語</td><td>小牧小学校</td><td>6 年</td><td>123 人</td></tr>
<tr><td>一色小学校</td><td>5 年</td><td>85 人</td></tr>
<tr><td rowspan="2">佐藤　史織<br>加藤　奏山<br>三門　祐輝</td><td rowspan="2">音楽</td><td rowspan="2">村中小学校</td><td>4 年</td><td>55 人</td></tr>
<tr><td>6 年</td><td>43 人</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td colspan="2">・教育、福祉、まちづくりなど多様な分野と連携し、取組を進めていく必要があります。<br>・アウトリーチ事業を体験したこどもたちが、継続して文化に興味を持ち、親しんでいくことが必要です。<br>・アウトリーチ事業の目的を理解し、コーディネートを行うことのできる人材の育成が必要です。</td></tr>
<tr><td>今後の取組の方向性</td><td colspan="2">・アウトリーチ事業に参加したこどもたちが、1 度の体験で終わることなく、継続して文化活動に関わってもらえるよう、こまき市民文化財団の主催する事業などの周知を行います。<br>・アウトリーチの訪問先の実情に合わせて、きめ細かいコーディネートを行うことにより事業の効果を最大限に高めます。</td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 評価委員の意見等 | ・アウトリーチ事業は参加者数が限られているように見受けられます。市の施策としての効果を検証し、必要性を見直すとともに、真に必要なことであれば、より多くのこどもに還元できるようにすべきです。<br>・学校へのアウトリーチについて、中学年や低学年へと、その幅が広がることを期待します。<br>・今後も活動の継続が望まれます。<br>・学校や施設にいながら、質の良い文化、芸術に触れる機会を持てるのはよいことです。<br>・こどもの時にプロのアーティストに触れる機会はなかなかないため、貴重な機会を提供されていると思います。今後の取組として継続性も重要だと思いますが、1 度の経験で胸を打たれることもあるので、幅広い層に届けることも検討していただけると良いと考えます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| 具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号） | 文化・芸術施設の環境整備（施策３２） | 担当課<br>文化・スポーツ課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | 鑑賞・創作・継承の拠点となる市内の文化施設において、施設の利便性が向上するよう、設備や機能の充実を検討します。 | |
| 達成状況 | ・市民会館は昭和 46 年に建築され、老朽化が進んでいるため、施設を快適に利用していただけるよう設備などの改修工事及び設計を行いました。<br><br>市民会館<br>【ホールＩＴＶ改修工事】<br>・ホールＩＴＶは経年劣化により映像が低下し、舞台上の安全確認や演目の進行状況が確認できない状態であったため、デジタルシステムに更新する工事を行いました。<br>【市民会館・市公民館大規模改修工事設計】<br>・老朽化が進む市民会館トイレ、ホール舞台機構、ホール空調機、正面玄関建具などを更新する設計を行いました。<br>・隣接する市公民館についても、市民会館と一体化した整備を行うための設計としました。 | |
| 課　　題 | ・小牧市公共施設長寿命化計画に基づき、目標耐用年数まで快適に施設を利用するため、また、利用者の多様なニーズに対応できるよう計画的に維持修繕を行う必要があります。<br>・施設の利便性が向上するよう機能の充実についても検討する必要があります。<br>・市民会館の大規模改修工事は令和 5 年 11 月から 1 年間程度予定しているため、利用団体の活動場所の確保について、工事に支障が出ない範囲でできる限り配慮する必要があります。 | |
| 今後の取組の方向性 | ・市民会館を安全・安心、また、快適に利用していただけるよう令和 5 年度、6 年度に大規模改修工事を行っていきます。<br>・市民会館大規模改修工事の工事期間・スケジュールなどについては、利用団体の日頃の活動などに支障が出ないようできる限り配慮し、工事業者と調整していきます。 | |
| 評価委員の意見等 | ・改修された施設が、使い勝手が良くなることを期待しています。<br>・今後も計画的な維持管理をお願いしたいです。<br>・安全・安心に利用できるよう施設を運用することは重要と考えますが、安全性と利便性を分けて考えて、優先順位をつけて進めていただけると良いかと思います。 | |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>文化財団の活動支援（施策３２）</td><td>担当課<br>文化・スポーツ課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">こまき市民文化財団が、文化振興の推進、文化芸術の普及のため、質が高く柔軟な事業企画や、効率的・効果的な運営ができるよう支援を行います。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">・こまき市民文化財団に対して、人件費や事務費、事業費の補助及び文化事業の委託を行いました。<br><br>【主な公演事業】
<table>
<tr><th>公演名</th><th>来場者数</th></tr>
<tr><td>人形劇団ひとみ座「岸辺のヤービ」</td><td>260 人</td></tr>
<tr><td>ロバの音楽座「わいてくるくるおんがっかい」</td><td>258 人</td></tr>
<tr><td>Ai Kuwabara Trio Jazz Live　桑原あいトリオ　ジャズライブ</td><td>230 人</td></tr>
<tr><td>劇団四季ミュージカル「ロボット・イン・ザ・ガーデン」(協賛事業)</td><td>中止</td></tr>
<tr><td>伝統芸能レクチャー「はじめての文楽」こども編・大人編</td><td>65 人</td></tr>
<tr><td>クリス・ハート　コンサート</td><td>706 人</td></tr>
<tr><td>公共ホール現代ダンス活性化事業Ｂプログラム<br>市民参加型オリジナルダンス公演「マイ葬式」</td><td>38 人</td></tr>
<tr><td>小曽根真　ピアノ・ソロ・コンサート</td><td>578 人</td></tr>
<tr><td>テーブルシアター「三びきのやぎのがらがらどん」児童館ツアー(3 館・全 5 回)</td><td>199 人</td></tr>
<tr><td>琉神～沖縄の風を運ぶ旅～</td><td>297 人</td></tr>
<tr><td>駒来落語会　柳家三三独演会</td><td>262 人</td></tr>
<tr><td>みんなの広場をつくるには<br>～文化芸術と地域のつながり～</td><td>100 人</td></tr>
<tr><td>駒来落語会　こども寄席</td><td>110 人</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>課　　題</td><td colspan="2">・こまき市民文化財団が行う事業をより効果的に進めるため、情報発信に力を入れていく必要があります。<br>・こまき市民文化財団への補助金の効果を検証するため、事業を適切に評価する仕組みを構築する必要があります。<br>・地域の文化芸術を熟知しマネジメント力を備えた人材の育成が必要です。</td></tr>
</table>

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 今後の取組の方向性 | ・こまき市民文化財団の事業を知ってもらい、足を運んでもらえるよう、事業などの周知に連携して取り組みます。<br>・事業の評価の仕組みについては、先進地などの事例を研究し、補助金の効果を最大化できるよう検討していきます。 |
| 評価委員の意見等 | ・補助金の効果の検証や、市民の声を収集し、反映させていく必要があります。<br>・今後もよい取組が行われることを期待しています。<br>・魅力的な公演が多く、遠くに行かなくても地元で楽しめるのがよいです。<br>・こまき市民文化財団を大きく育てることを望んでいます。スポーツ部門は「スポーツ協会」、文化部門は全て「こまき市民文化財団」というような組織関係を構築していただきたいです。市民から車の両輪のように理解されるような組織となることを望みます。そのために、こまき市民文化財団を積極的に支援していただきたいです。<br>・非常に良い活動ですので、今後も続けて欲しいと思います。 |

## 基本目標８　郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承

✎　郷土の歴史・文化に親しむことで、郷土への愛着や誇りを醸成します。

✎　市民や関係機関と行政が協力し、郷土の歴史・文化遺産の保護、活用を進め、次世代へ継承します。

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>埋蔵文化財の調査・記録保存（施策３３）</td><td>担当課<br>文化財課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">埋蔵文化財の貴重な情報を得るため、周知の埋蔵文化財包蔵地内で開発がある場合は、適正な調査・記録保存を行います。</td></tr>
<tr><td>達成状況</td><td colspan="2">〇有無照会<br>・工事に際し、事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するかの問合せがあったもののうち、該当したものが窓口などで約 100 件、書面で 40 件あり、適切な手続や調整などを行うよう、説明・指導に努めました。（書面については窓口との重複あり）<br><br>〇試掘調査（文化財保護法第 99 条）<br>周知の埋蔵文化財包蔵地内で実施される工事のうち、埋蔵文化財の分布状況や、遺構の遺存状況が明らかでないものに対して事前に試掘調査を行い、状況を確認しました。
<table>
<tr><th>遺跡名</th><th>所在地</th><th>調査期間</th><th>調査面積</th><th>時代</th></tr>
<tr><td>市之久田中屋敷遺跡</td><td>常普請</td><td>1 月 17 日から<br>1 月 18 日</td><td>3 ㎡</td><td>中世以降</td></tr>
</table>
・主な成果（確認した遺構や遺物）<br>トレンチを 1 ヶ所設定し調査を実施したところ、ピット（穴）を 1 基確認し、埋土から土師質土器の小片 1 点を確認しました。<br><br>〇発掘調査（文化財保護法第 94 条）
<table>
<tr><th>遺跡名</th><th>所在地</th><th>調査期間</th><th>調査面積</th><th>時代</th></tr>
<tr><td>天王塚遺跡第 3 次</td><td>文津</td><td>4 月 12 日から<br>7 月 1 日</td><td>450 ㎡</td><td>中世・<br>近世以降</td></tr>
</table>
・主な成果（確認した遺構や遺物）<br>建物跡と考えられる多数の柱穴や屋敷地を区画する溝を確認し、中世から近世の集落がひろがっていたと考えられます。遺物は山茶碗などの土器や漆椀などの木製品が出土しました。また、少量ではありますが弥生土器も出土しました。<br>・調査報告会の実施<br>8 月 28 日に文津区民を対象にした、天王塚遺跡第 3 次発掘調査の報</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| | 告会を開催し、19 人の参加がありました。<br><br>〇工事立会<br>・文化財保護法第 93 条の届出及び第 94 条の通知に対して、31 件の工事立会を行い、遺跡の状況を記録しました。<br><br>※埋蔵文化財とは<br>土地に埋蔵されている文化財のことです。埋蔵文化財には、大きく分けて集落跡・貝塚・古墳・古窯跡・寺院跡などの遺跡と、土器・石器・木器・金属器などの遺物とがあります。<br><br>※周知の埋蔵文化財包蔵地とは<br>埋蔵文化財が地下に包蔵された土地で、その存在が知られている土地のことをいいます。<br><br>※文化財保護法第 93 条の届出、第 94 条の通知とは<br>文化財保護法では、周知の埋蔵文化財包蔵地において土木工事などを行おうとする場合、民間の事業者は工事着手の 60 日前までに文化庁長官（実務的には権限委譲を受けた愛知県）あてに届出を（同法第 93 条第 1 項）、地方公共団体などは事業計画の策定に当たって通知（同法第 94 条第 1 項）をすることになっています。 |
| 課　　題 | ・公共事業のスケジュールに合わせて発掘調査を行う必要があり、限られた期間で効率的かつ効果的な調査を行う必要があります。<br>・文化財保護法においては民間業者の開発に伴う埋蔵文化財発掘の届出については工事着手の 60 日前までに提出することとしていますが、着手直前での届出となることもあり、発掘調査の日数確保や工事立会のスケジュール調整が困難となることがあります。 |
| 今後の取組の方向性 | ・開発行為のうち、公共事業については、その担当課と事前協議を十分に行うとともに、調査中も必要に応じて協議を行うなどし、進捗などの情報共有に努めます。<br>・引き続き工事立会の日時を事前に調整することを、業者に徹底して伝えるようにします。<br>・市広報や市ホームページを通して、埋蔵文化財に対する市民や事業者への理解に努めます。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 評価委員の意見等 | ・発掘調査の日数確保や工事立会のスケジュール調整が困難となるケースがあるようですが、60 日前の申請を必要とする理由について、申請後のスケジュールを明示するなどにより、広く理解されるよう周知に努めてください。<br>・市民の共有財産ですので、発掘調査や工事立会は適切に行ってください。<br>・今後とも取組を継続されることを望みます。<br>・発掘調査や出土したものについて、出前授業などで小中学生が知る機会を持つことも、将来的に文化財保護につながるのではないでしょうか。<br>・埋蔵文化財に対する市民や事業者への理解に努めるとともに、行政と事業者がしっかりと連携して進めていただければと思います。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

<table>
<tr><td>具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号）</td><td>文化財啓発イベントの開催（施策３４）</td><td>担当課<br>文化財課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="2">小中学生を対象に、小牧の歴史や文化をテーマとした検定や講座を行ったりする等、郷土への誇りや愛着を高めます。</td></tr>
<tr><td>達 成 状 況</td><td colspan="2">・古文書に親しむきっかけをつくることで、歴史への興味関心を高めていただくことをねらいとして、講座「子ども古文書寺子屋」を開催しました。（連続２回講座・愛知文教大学委託事業）
<table>
<tr><th>開催日</th><th>内容</th><th>受講者数</th></tr>
<tr><td>7 月 30 日、<br>8 月 6 日</td><td>古文書に書かれたくずし字の読み書きを中心に、テキストを使って古文書の基礎を学びました。<br>講　師：酒向道夫氏<br>対　象：小学 4～6 年生<br>参加費：無料</td><td>4 人</td></tr>
</table>
・小学校で郷土について学習することを受け、更に発展的に郷土の歴史や地理・公民的内容への興味関心を高めていただくため、「こまき検定」を開催しました。あわせて、より多くの方にも郷土への関心を高めていただけるようホームページで問題文を紹介しています。（小牧市文化財資料研究員会委託事業）
<table>
<tr><th>開催日</th><th>内容</th><th>参加者数</th></tr>
<tr><td>11 月 3 日</td><td>小牧市の歴史・地理等に関する検定<br>（問題全 30 問中 21 問以上の正解で合格）<br>対　象：小学生・中学生<br>（問題の難易度は小学 5 年生程度）<br>参加費：無料</td><td>23 人</td></tr>
</table>
・実際に現地を歩いて直接文化財にふれることで、地域への愛着を高める機会とするため、今回は味岡地区において講座「文化財巡り」を開催しました。（愛知文教大学委託事業）
<table>
<tr><th>開催日</th><th>内容</th><th>参加者数</th></tr>
<tr><td>11 月 6 日</td><td>小牧の文化財地図「訪ね歩きマップ（味岡地区）」をもとに、岩崎山周辺を散策しました。<br>案内人：篠田徹氏ほか文化財地図作成委員<br>対　象：小学生以上<br>参加費：650 円（小中学生は無料）</td><td>17 人（大人のみ）</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

・実物に触れたり、体験したりする活動をとおして、歴史への興味関心を高め、郷土への愛着を高めていただけるよう、れきしるこまきにてワークショップなどを開催しました。（指定管理者（一財）こまき市民文化財団実施事業）

| 開催日 | 内容 | 参加者数 |
|---|---|---|
| 4 月 30 日 | ゴールデンウィーク企画！石垣チャレンジ<br>対　象：なし<br>参加費：無料 | 50 人 |
| 5 月 7 日 | ゴールデンウィーク企画<br>「れきしるこまき　みる！しる！小牧山」<br>対　象：小中学生<br>参加費：30 円（保険代） | 22 人 |
| 7 月 31 日 | 小牧山城の発掘品にふれてみよう！<br>対　象：小中学生<br>参加費：100 円（材料費） | 23 人 |
| 7 月 28 日、29 日、30 日、8 月 21 日、22 日 | 夏休み自由研究☆レキシルお助け隊<br>対　象：小学 4～6 年生<br>参加費：30 円（保険代） | 5 人 |
| 8 月 6 日 | 自由研究にピッタリ！小牧山城石垣ジオラマをつくろう<br>対　象：3 年生以上の小学生<br>参加費：400 円（材料費） | 16 人 |
| 10 月 2 日 | サイコロで導け！家康のオリジナルすごろくをつくろう！<br>対　象：小学生以上<br>参加費：無料 | 18 人 |
| 11 月 5 日・13 日 | 木の実でつくろう足軽人形<br>対　象：なし<br>参加費：無料 | 115 人 |

**課　　題**

・ＮＨＫ大河ドラマの影響もあり、令和４年度に実施した大人向けの古文書講座（基礎）の受講希望者は定員の２倍近くになりましたが、小中学生には、くずし字で書かれた古文書に馴染みがないため、受講希望者数が伸び悩んでいます。

・小牧の歴史や文化をテーマとした講座やイベントについては、年々参加者数が減少しています。

・日程的に他のイベントと重なることのないよう、学校や他団体との情報交換を密にし、調整を図る必要があります。

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 今後の取組の方向性 | ・古文書に興味・関心を持ってもらい、親しんでもらえるよう、地元に残る古文書を題材にするなど講座の内容を検討していきます。<br>・小中学生により興味・関心をもってもらえるよう、れきしるこまき以外で開催する講座やイベントにおいても、例えば市内で出土したいろいろな時代の土器に触れるなどの、体験を交えた内容を検討していきます。<br>・学校や他団体からの情報収集に努め、小中学生が参加しやすい実施時期を検討していきます。 |
| 評価委員の意見等 | ・児童生徒の歴史への興味・関心が高まるように、例えば社会科の教員のアイディアを入れて、地元の歴史を調べたり学んだりする一連の活動の中に、古文書を取り入れるとよいのではないでしょうか。<br>・一日で完結する講座を増やすと、入門としては取り掛かりやすいかと思います。今後とも継続していただきたいと望みます。<br>・様々なイベントを企画していると思います。体験的な講座が増えるとよいです。<br>・本市の身近な地理や歴史に興味関心を持つきっかけとしての歴史検定は今後も継続して進めていただきたいと思います。級判定や獲得者数の公表、認定バッジの配布などによる意欲づけもよいのではないかと思います。<br>・地元を学ぶ良い機会だと思いますので、子どもの参加意欲が上がるような仕組みがあると良いと思います。例えば、検定があるのであれば、一定以上の成績は学校で表彰してもらってはどうでしょうか。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| 具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号） | 史跡小牧山主郭地区整備基本計画の推進（施策３５） | 担当課<br>小牧山課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | 令和７年度の完成を目指し、史跡小牧山主郭地区のうち、小牧市歴史館周辺の石垣復元等の史跡整備工事を進めます。 | |
| 達成状況 | ・史跡整備工事第１工区（歴史館西側箇所）において２段の石垣の復元を主とした史跡整備を行っており、令和５年３月 31 日に完了しました。<br>・令和７年度の完成を目指す山頂主郭地区の史跡整備実施設計の資料とするため、10 月～3 月に史跡小牧山主郭地区第 3・4 工区（山頂東側斜面、約 200 ㎡）の発掘調査を実施しました。調査の結果、令和２年度に実施した第 13 次発掘調査（今回の調査区の北側）で確認した３段目の石垣が、約 14m南側に続くことが確認できました。<br>・調査区の南端部は浄化槽の設置などに伴う撹乱を受けており、曲輪や石垣配置状況を明らかにすることはできませんでした。 | |
| 課　　題 | ・史跡小牧山の山頂部での工事であることから、作業スペースや車両の進入路が限られているため、小牧山内の各施設管理者と調整の上、効率的な施工を検討していく必要があります。<br>・工事中の安全確保のため、山頂へ至る園路の一部通行止めや立ち入り制限エリアを設定する必要があります。<br>・歴史館や便益施設の建設などにより遺構が破壊された部分については、史跡整備のための情報が少ないため、慎重に設計を進める必要があります。 | |
| 今後の取組の方向性 | ・令和７年度の完成を目標に、引き続き歴史館周辺の史跡整備工事を実施していきます。<br>・関係者と事前に工事など整備スケジュールを共有し、円滑に史跡整備を進められるようにします。<br>・工事に際しては、来場者の安全が確保できるよう進入禁止エリアやう回路を設定するとともに、小牧山をよく知らない人でも道に迷わないよう、現地をはじめ、小牧山入口や市ホームページへの案内を載せるなど周知を十分に行っていきます。<br>・現地公開や市ホームページ・広報、れきしるこまき（小牧山城史跡情報館）における展示などにより、発掘調査や史跡整備の成果や今後の予定について、周知に努めることにより、小牧山の保存や史跡整備についての理解を広めます。<br>・令和５年度も引き続き、主郭地区第４工区を整備するために必要な発掘調査を実施し、専門家の意見を聞きながら小牧山城の史跡整備を進めます。 | |

点検評価シート（令和４年度実績）

| | |
|---|---|
| 評価委員の意見等 | ・引き続き、小牧のシンボルとして、小牧山の魅力を発信していただきたいです。<br>・今後とも取組の継続を望みます。<br>・完成を目指して引き続き活動推進をお願いします。 |

点検評価シート（令和４年度実績）

| 具体的な取組<br>（教育振興基本計画の施策番号） | 史跡小牧山の歴史的価値や魅力の啓発（施策３５） | 担当課<br>小牧山課<br>文化財課 |
|---|---|---|
| 内　　容 | 史跡小牧山の歴史的価値や魅力について、小牧山を来訪された方により理解していただけるよう、小牧市歴史館やれきしるこまき（小牧山城史跡情報館）の展示内容の更新を図ります。また、小牧山城での発掘調査成果を紹介する企画展示等の開催や、小牧・長久手の合戦に関する講座等を行います。 | |
| 達成状況 | ・小牧山山頂にある小牧市歴史館は、展示内容を歴史民俗資料から戦国時代の小牧山を中心とする展示内容に全館改装し、施設名を小牧山歴史館に改正しました。(令和５年４月１日リニューアルオープン)<br>・れきしるこまきは、エントランスグラフィックや城郭シアターの映像などに、小牧・長久手の合戦についての展示を追加しました。<br>・両施設において、指定管理者である（一財）こまき市民文化財団により下記のとおり各種事業を行い、小牧山の歴史的価値の周知に努めました。<br><br>●小牧市歴史館企画展<br>「小牧山を舞う野鳥たち」<br>期間　7 月 22 日～8 月 31 日<br>会場　小牧市歴史館 1 階無料スペース<br>入場者数　5,931 人<br><br>「小牧・長久手の戦いの 20 人」<br>期間　10 月 1 日～11 月 30 日<br>会場　小牧市歴史館 1 階無料スペース<br>入場者数　13,446 人<br><br>●れきしるこまき企画展<br>「令和によみがえれ！信長の城！小牧山城石垣復元パネル展」<br>期間　6 月 4 日～8 月 31 日<br>会場　企画展示・資料室<br>入場者数　5,921 人<br><br>「家康・秀吉覇を争う！小牧・長久手の戦い」<br>期間　10 月 1 日～11 月 30 日<br>会場　企画展示・資料室<br>入場者数　9,017 人 | |

●れきしるこまき講座・講演

| 開催日 | 演題 | 講師 | 受講者数 |
|---|---|---|---|
| 7 月 2 日 | 誰でもわかる小牧・長久手の戦いトークセッション | 川出康博氏<br>内貴健太氏<br>西松賢一郎氏 | 66 人 |
| 11 月 27 日 | 小牧・長久手の戦いと徳川家康 | 柴裕之氏 | 65 人 |
| 1 月 28 日 | 復元イラストで見る信長の城・家康の城 | 香川元太郎氏 | 65 人 |
| 2 月 25 日 | 講談で聴く～徳川家康公～ | 龍齋貞鏡氏 | 66 人 |
| 3 月 12 日 | 大人の発掘教室 | 小牧山課職員他 | 24 人 |

●れきしるこまきワークショップ（一部再掲）

| 開催日 | 内容 | 参加者数 |
|---|---|---|
| 4 月 30 日 | ゴールデンウィーク企画！石垣チャレンジ | 50 人 |
| 5 月 7 日 | ゴールデンウィーク企画<br>「れきしるこまき　みる！しる！小牧山」 | 22 人 |
| 7 月 31 日 | 小牧山城の発掘品にふれてみよう！ | 23 人 |
| 8 月 6 日 | 自由研究にピッタリ！小牧山城石垣ジオラマをつくろう | 16 人 |
| 7 月 28 日、29 日、30 日、8 月 21 日、22 日 | 夏休み自由研究☆レキシルお助け隊 | 5 人 |
| 10 月 2 日 | サイコロで導け！家康のオリジナルすごろくをつくろう！ | 18 人 |
| 11 月 5 日、13 日 | 木の実でつくろう足軽人形 | 115 人 |
| 12 月 3 日 | 小牧山城茶会 | 150 人 |
| 12 月 4 日 | 秋の小牧山　大人のわくわく史跡探検 | 22 人 |
| 3 月 18 日 | 発掘品模型と花押缶バッジを作ろう | 33 人 |

| | |
|---|---|
| 課　　題 | ・更に多くの方にご来場いただけるよう、小牧山城の歴史や魅力を発信する方法を、指定管理者と連携し検討する必要があります。 |
| 今後の取組の方向性 | ・指定管理者である（一財）こまき市民文化財団において、引き続き史跡小牧山の発掘調査の成果や、史跡整備の状況の解説などタイムリーな企画展示や講座などの開催に努めます。 |

| | |
|---|---|
| | ・両施設で行った来場者アンケート結果では、来場者の9割以上が市外の方であることを踏まえ、市外に向けた施設のＰＲに努めます。<br>・他の史跡なども参考にして、ガイダンス機能のさらなる向上を目指します。 |
| 評価委員の意見等 | ・引き続き、小牧のシンボルとして、小牧山の魅力を発信していただきたいです。<br>・近隣の飲食店や特産物店などと関連付けてマップを作るなど包括的な魅力発信を期待します。<br>・今後とも戦国時代の小牧山を感じさせる企画を楽しみにしています。<br>・季節の移り変わりを感じながら、歴史を学ぶことができる小牧山城の魅力を今後も発信していってほしいです。<br>・小牧山は魅力的な史跡だと思いますが、来場者を呼び込むという点では他にも興味を持ってもらえるコンテンツがあると良いと思います。子どもでも楽しめる・理解できる体験コンテンツの充実に努めてください。 |